

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2021年1月から3月
2. 調査対象：小樽市内の企業272社
3. 内 訳：製造業61、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業47
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：191社（70.2%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

— 市内景況は、好転している —

前年同期（2020年1月～3月）と比べた今期（2021年1月～3月）の状況
今期と比べた来期（2021年4月～6月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲34.6で、前年同期と比べ7.2ポイント上昇しました。新型コロナウイルスによる業況の低迷は全ての業種で続いています。DI値は前年同期の値を上回りました。

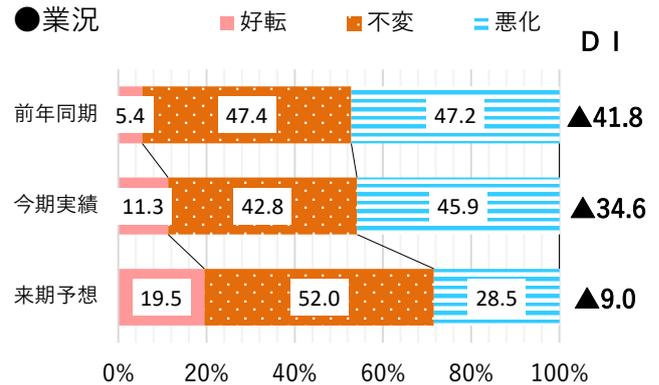
業種別DIは、製造業が同13.1ポイント上昇の▲24.4となりました。売上DIが大幅に上昇しましたが、需要の停滞に加え、原材料価格の上昇が主要な課題です。卸売業は同4.2ポイント上昇の▲33.3となりました。業況DI、売上DI、採算DIいずれも上昇しましたが、仕入単価の高止まりや引合いの減少傾向が課題です。小売業は同33.4ポイント上昇の▲18.5となりました。客数の減少傾向が続いていますが、資金繰りの悪化傾向は緩和し、業況、売上、採算いずれもマイナス幅が縮小しました。運輸・倉庫業は同1.7ポイント低下の▲33.3となりました。旅客運送では全ての企業で、業況、売上、採算が悪化したとの回答がありました。旅客運送、貨物運送は人材不足の傾向にあります。倉庫業は売上の減少傾向が強まりました。観光業は同10.8ポイント低下の▲82.3となりました。業況DI、売上DI、採算DIは全て上昇しましたが、いずれも▲80.0を下回っており、依然として深刻な状況にあります。日本人客数はやや回復しましたが、外国人客数は減少傾向が続いています。また、従業員の減少傾向が大幅に強まりました。サービス業は同13.1ポイント低下の▲34.6となりました。飲食業では全ての企業で業況、売上、採算、資金繰りが低下したとの回答があり、深刻な影響が伺えます。需要の停滞、利用者ニーズの変化への対応が主な課題です。建設業は同3.9ポイント上昇の▲15.4となりました。業況DI、売上DI、採算DIいずれもやや上昇し、資金繰りが好転しました。従業員数は増加に転じましたが、依然として不足傾向にあります。

来期の業況判断DIは▲9.0で、悪化傾向が弱まると予想しています。大幅な景気回復は期待できず、新型コロナウイルスの動向が懸念されるものの、ワクチン供給の進展や国内観光客の増加傾向、ゴールデンウィーク中の人出の増加により、悪化傾向が弱まると考えられます。

業況、売上、採算

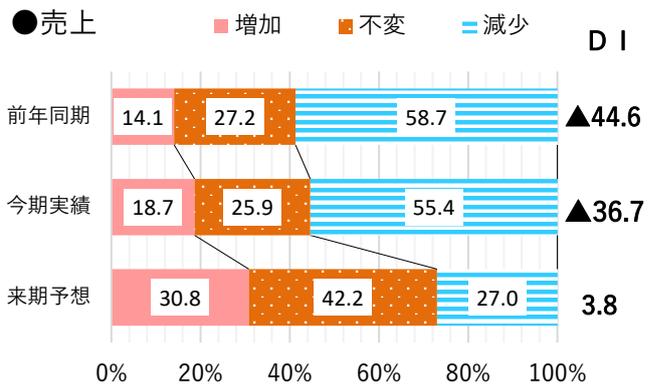
今期（2021.1～3）の業況判断DIは▲34.6で、前年同期(2020.1～3)と比べ7.2ポイント上昇しました。

来期（2021.4～6）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



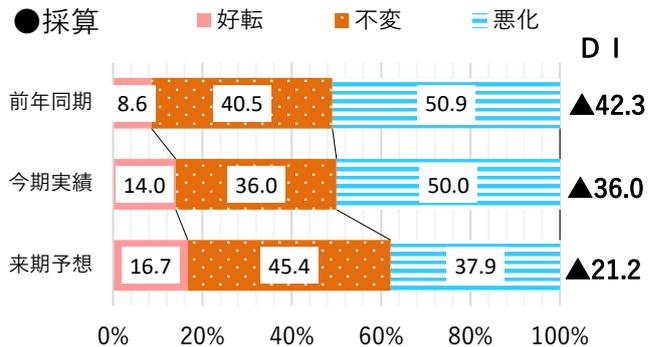
今期の売上DIは▲36.7で、前年同期と比べ7.9ポイント上昇しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

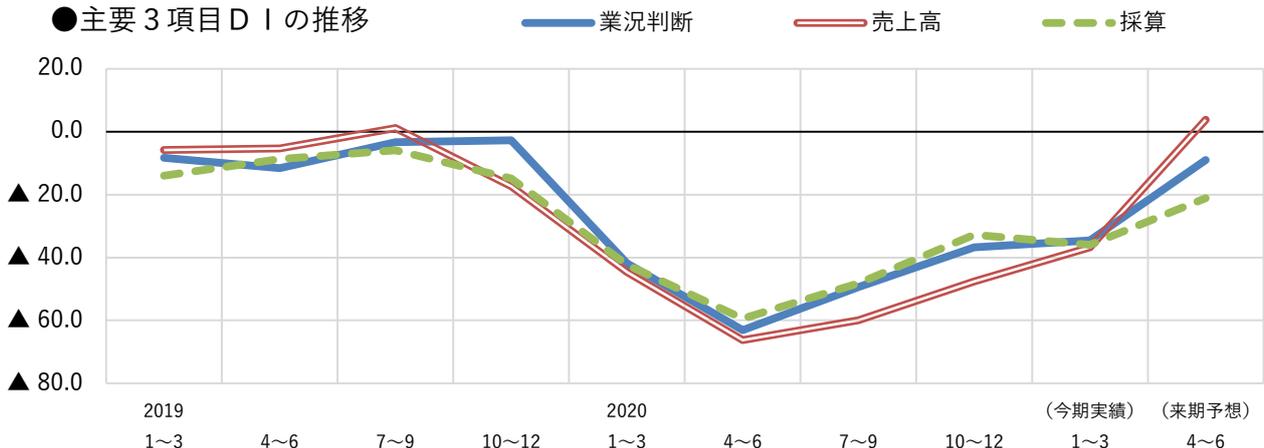


今期の採算DIは▲36.0で、前年同期と比べ6.3ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



●主要3項目DIの推移



従業員、今期の雇用状況

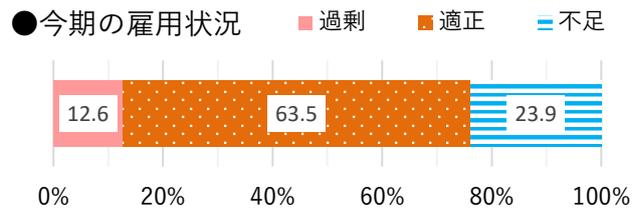
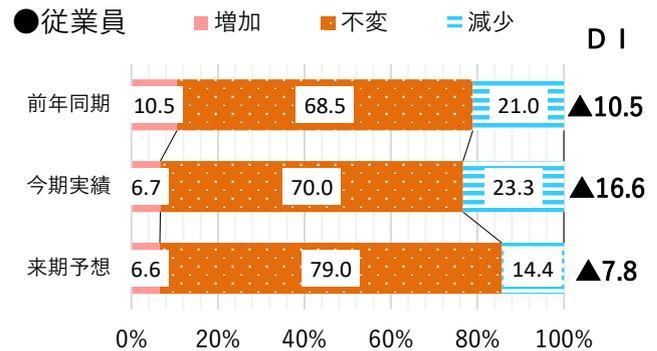
今期の従業員DIは▲16.6で、前年同期と比べ6.1ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は12.6%、適正であると回答した企業の割合は63.5%、不足していると回答した企業の割合は23.9%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の47.6%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。



今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	8
	不足	5
不変だった	過剰	17
	適正	91
	不足	24
減少した	過剰	12
	適正	20
	不足	14

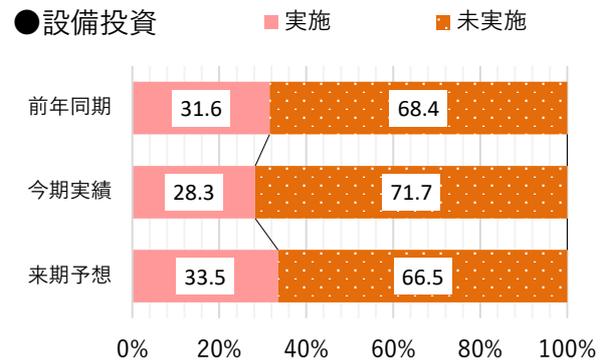
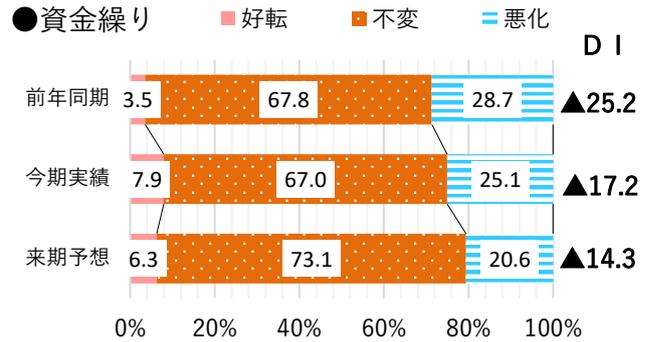
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲17.2で、前年同期と比べ8.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。

新規設備投資の動向では、回答のあった191社の28.3%にあたる54社が実施、前年同期と比べ3.3%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、33.5%にあたる64社が設備投資を計画していると回答しています。

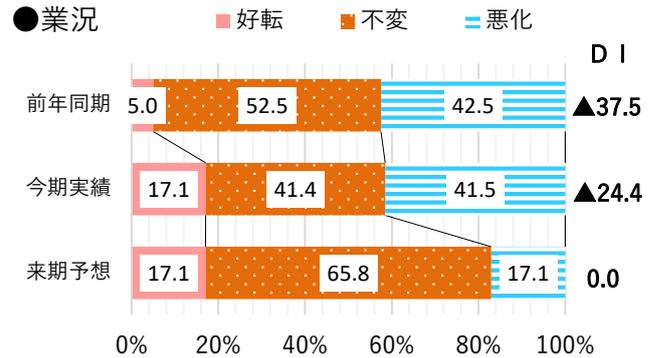


製造業

業況、売上、採算

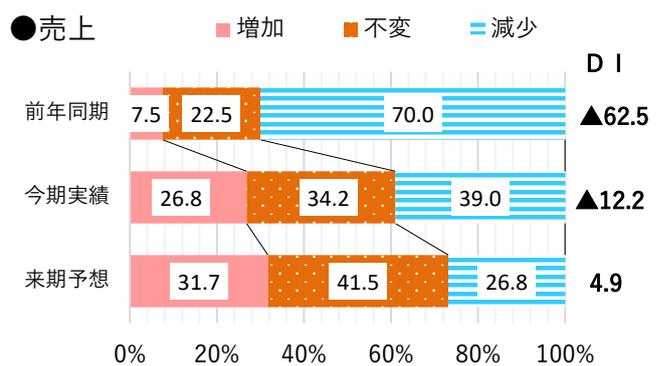
今期(2021.1~3)の業況判断DIは▲24.4で、前年同期(2020.1~3)と比べ13.1ポイント上昇しました。

来期(2021.4~6)は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



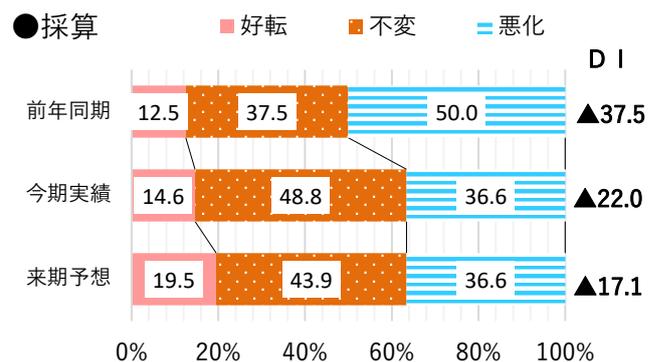
今期の売上DIは▲12.2で、前年同期と比べ50.3ポイント上昇しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

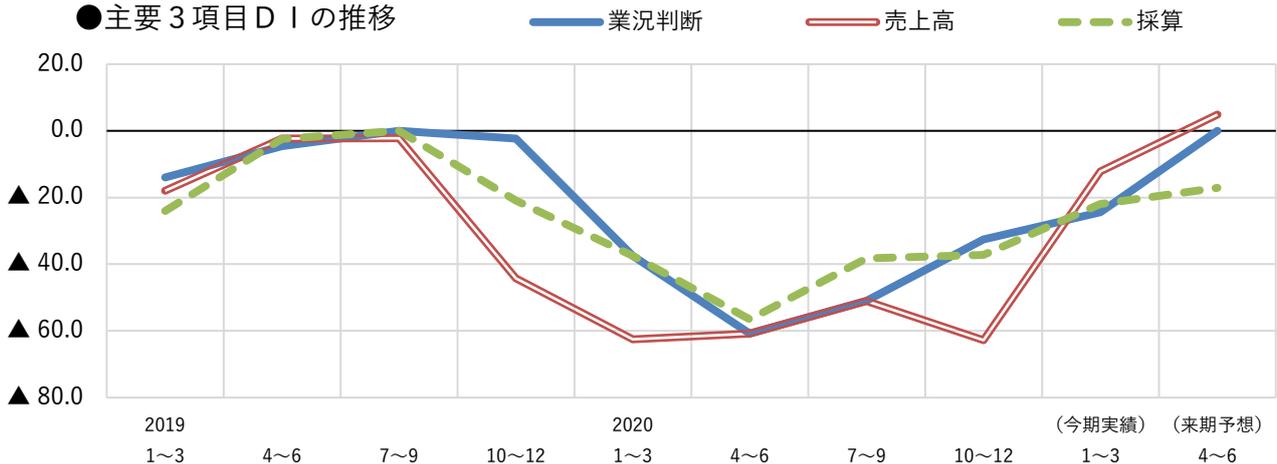


今期の採算DIは▲22.0で、前年同期と比べ15.5ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



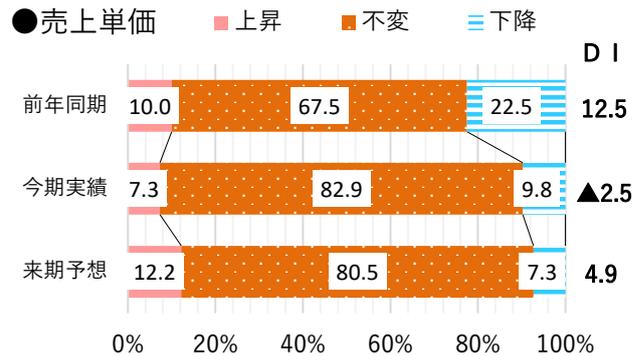
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

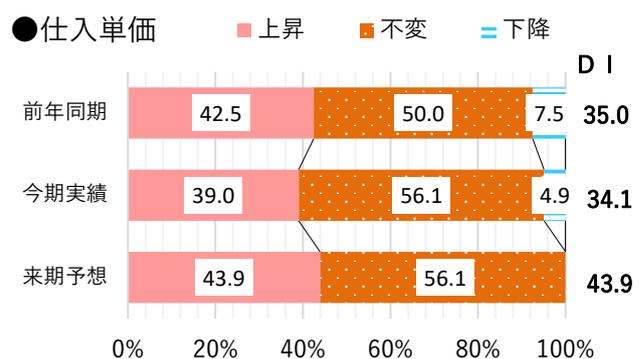
今期の売上単価DIは▲2.5で、前年同期と比べ15.0ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上単価が上昇に転じると予想しています。



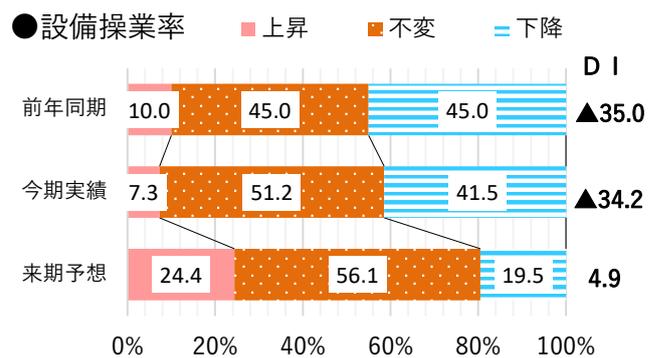
今期の仕入単価DIは34.1で、前年同期と比べ0.9ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲34.2で、前年同期と比べ0.8ポイント上昇しました。

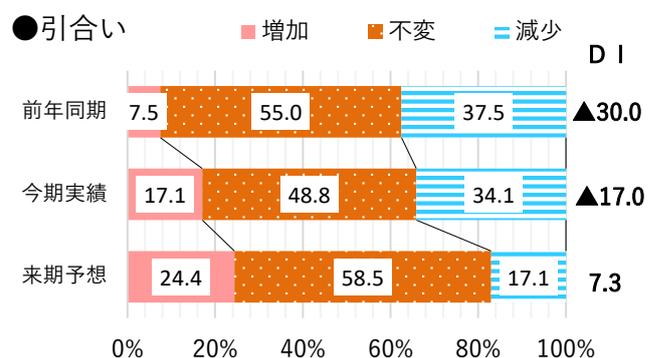
来期は、設備操業率が上昇に転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲17.0で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

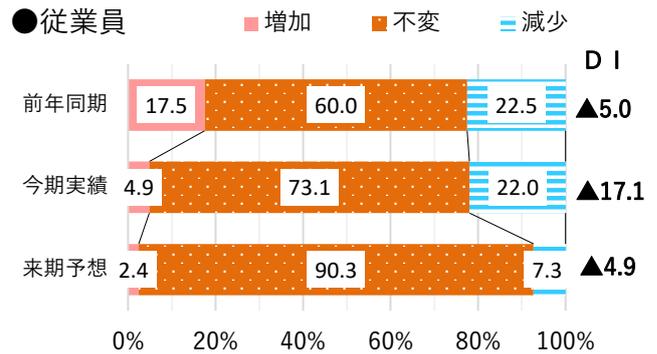
来期は、引合いが増加に転じると予想しています。



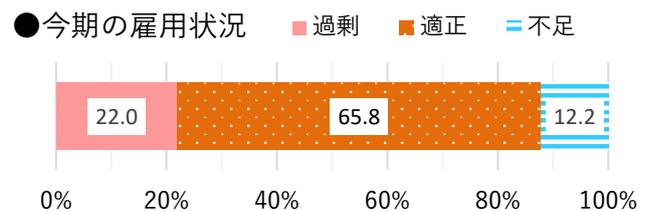
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲17.1で、前年同期と比べ12.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は22.0%、適正であると回答した企業の割合は65.8%、不足していると回答した企業の割合は12.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の51.2%を占めています。

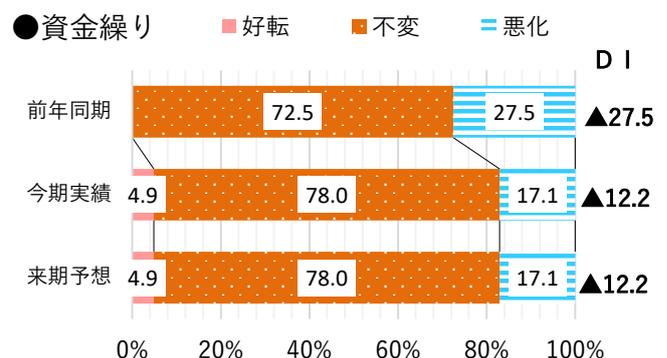
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、過剰である」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	7
	適正	21
	不足	2
減少した	過剰	2
	適正	4
	不足	3

資金繰り、設備投資

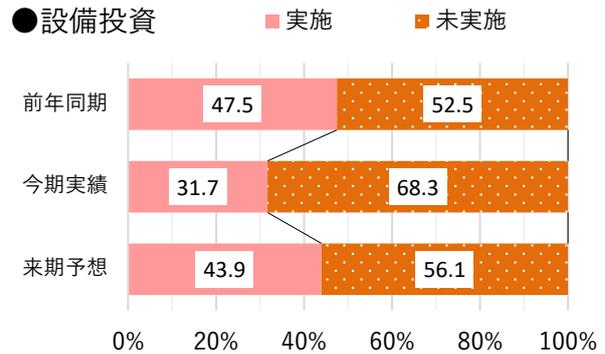
今期の資金繰りDIは▲12.2で、前年同期と比べ15.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに変化はないと予想しています。



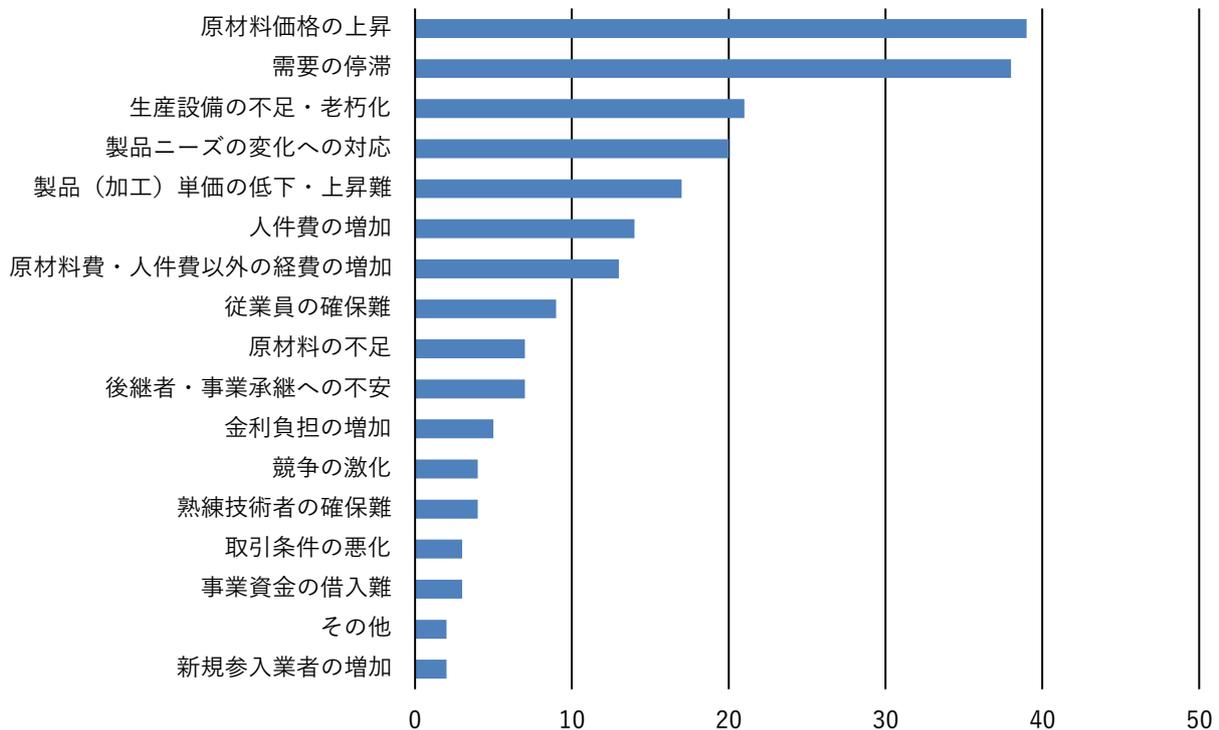
設備投資を実施した企業の割合は31.7%で、前年同期と比べ15.8%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は43.9%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「生産設備の不足・老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 国内の建築向け投資の減少傾向や、原材料価格の高騰により業況が悪化した。（金属製品）
- コロナ禍のために延期している工事があり、工場稼働率が低下した。（金属製品）
- 社員数が減少した。新たな取引に関する問い合わせがあった。（金属製品）
- 売上が増加し、人材確保も順調だった。（金属製品）
- 売上は減少したが、原材料価格は下降したため、採算は前年並みだった。（プラスチック）
- 原材料価格が上昇したが、販売価格に転嫁できず、業況が悪化した。（プラスチック）
- 大型案件の引合いが減少しており、売上高の維持に苦労している。（機械器具）

- 降雪量の増加に伴い、履物部門の売上が増加したが、生産部門の稼働率が低下したため、増収にはならなかった。（ゴム製品）
- 需要が増加した。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルスの影響で、客先によって売上が増減したものの、総じて前年並みの売上を維持できおり、新規顧客の開拓と販路拡大の成果を少しずつ実感できるようになった。親会社からの委託量も、交渉によって増加した。固定費は人員を削減することで圧縮した。（紙製品）
- 首都圏の緊急事態宣言が解除されなければ、経済の回復は難しいと思われる。（紙製品）
- 来年度の発注の見通しが立たず、苦労している。（衣服）
- コロナ禍のため営業を自粛した。（その他繊維製品）
- 新型コロナウイルスの影響で、他社ブランド製品の受注件数が減少した。ECサイトでの通販売上が好調だったため、前年と同程度の売上を確保できた。物流コストの増加や調味料、香料などの仕入高の増加により原価比率が上昇した。（食料品）
- 新型コロナウイルスの影響で、ホテル、飲食、土産品等販売等の得意先への売上が大きく減少した。ニシンの価格は、漁獲時期の遅れや、新型コロナウイルスの影響による海外産ニシンの品薄により高値で推移した。（食料品）
- 巣ごもり需要で売上が増加したが、いつまで続くのか分からない。業務用商品の売上回復は見込めない。原料が高騰しているが、商品単価を引き上げると売上が減少するため、悩ましい状況にある。（食料品）
- 商品の原産地であるカナダやアラスカで、ニシンの不漁やコロナ禍によって漁獲量が減少したため、工場の操業度が低下した。（食料品）
- 突然のコロナ禍による混乱で売上が減少した前年同期と比べると、売上は増加した。個人消費に力強さが感じられない。（食料品）
- コロナ禍により人の動きが無く、経済が停滞している。飲食、ホテル向けの売上は一切無い。（食料品）
- 対前年同期比の売上は97%だった。原材料費がやや低下したため、採算は好転した。（食料品）
- 新型コロナウイルスの影響はほぼ無かった。（食料品）
- 売上額は3月に入り、やや好転した。（食料品）
- ネット販売が好調だった。（食料品）
- 飲食店の向けの販売は下げ止まりとなった。小売店向けの販売は堅調に伸びている。（飲料）
- 巣ごもり需要によって、業績が好調に推移した。（飲料）

[来期の業況について]

- コロナ禍による業界全体の不透明感は払拭されず、材料価格の高騰も続くと思われる。（金属製品）
- 原材料価格の大幅な値上げが予定されており、売上の回復も見込めない。（プラスチック）
- 原材料価格の上昇が続くと思われる。（プラスチック）
- 引合いの増加と成約のため、営業社員が奔走しているが、先行きは不透明である。（機械器具）
- 新型コロナウイルスの終息と、その後の消費拡大に期待する。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルスの終息に期待する。（ゴム製品）
- 販売面での取組が実を結び、生産量が増加する見込みである。親会社からの委託量は維持したい。新型コロナウイルスが終息に向かうことで、土産品等に使用される内装紙容器の売上増加に期待する。現在の人員で増産分に対応することで、労務費の抑制と生産性の向上を図りたい。（紙製品）
- 新型コロナウイルス変異型の流行が懸念される。（紙製品）
- 天候やコロナ禍による穀物の不作や収穫量の減少、中国の穀物輸入量増加により、原材料価格の上昇が見込まれる。また、原油価格の上昇により包装資材の価格上昇も予想される。（食料品）
- 観光関連の売上は、新型コロナウイルスの動向に左右される。小売店向けとネット通販の売上は、新商品によって微増する見込みである。（食料品）
- 他社商品主体の生産体制から、自社商品の増産へ移行し、売上増加と販路拡大を図る。（食料品）
- 前年と同程度の業況を予想する。原材料費はやや下降したまま変わらないと思われる。（食料品）
- ゴールデンウィークに向けて、首都圏での経済や人の動きの活性化に期待する。（食料品）
- 数の子の売上が減少する時期であり、仕入期に入るため資金繰りが悪化する。（食料品）
- 原材料である水産物の輸入量が減少し、売上が減少すると思われる。（食料品）

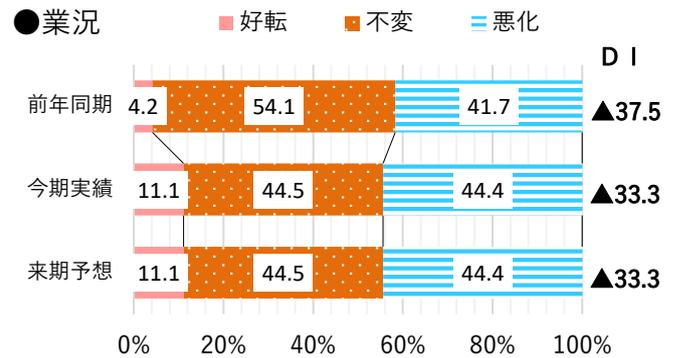
- 長引くコロナ禍で、経済の停滞が深刻化する可能性がある。（食料品）
- 状況の改善には、2年以上かかると思われる。（食料品）
- ネット販売の好調が続くと思われる。（食料品）
- コロナ禍が一巡し、小売店向けの売上が堅調に推移すると思われる。（飲料）
- 長引くコロナ禍のため、予想できない。（飲料）

卸 売 業

業況、売上、採算

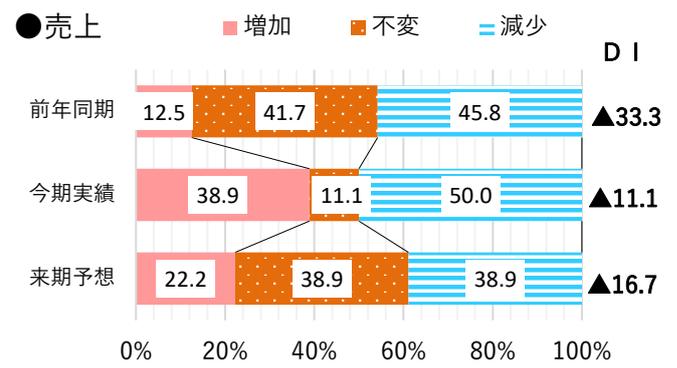
今期(2021.1~3)の業況判断DIは▲33.3で、前年同期(2020.1~3)と比べ4.2ポイント上昇しました。

来期(2021.4~6)は、業況に変化はないと予想しています。



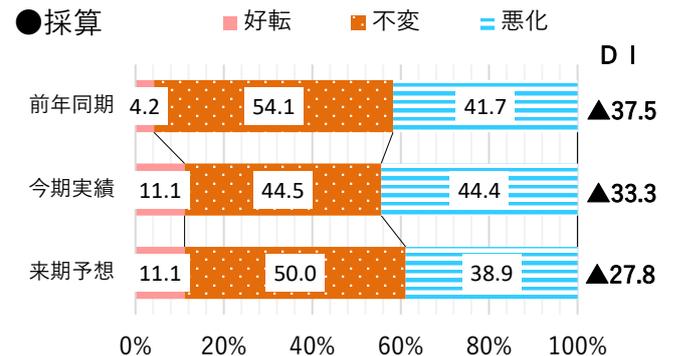
今期の売上DIは▲11.1で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が続くと予想しています。

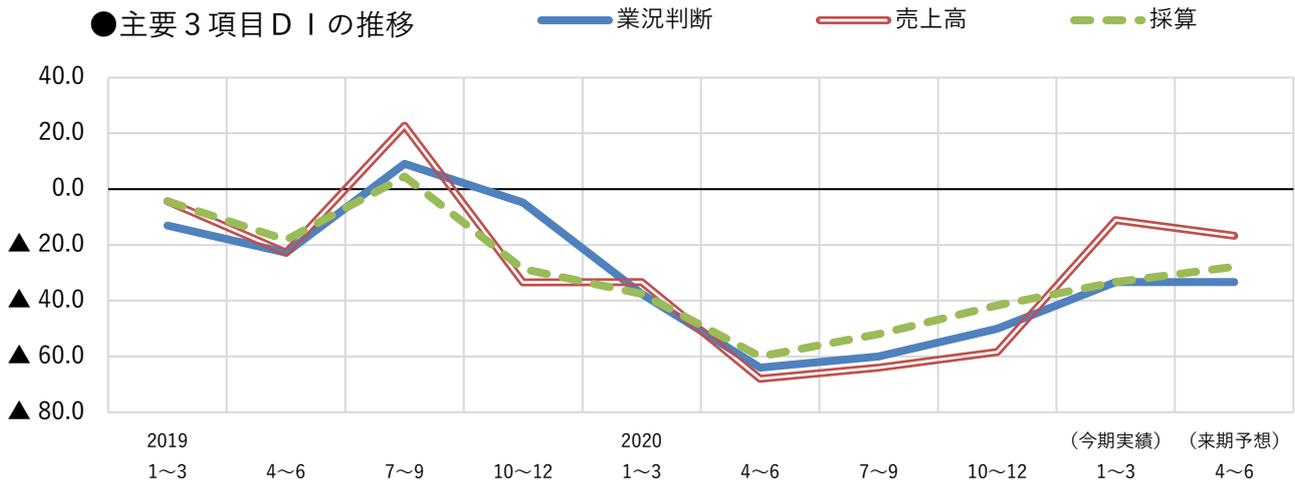


今期の採算DIは▲33.3で、前年同期と比べ4.2ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



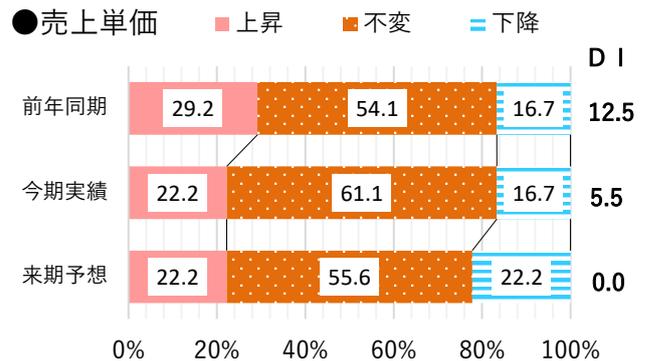
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

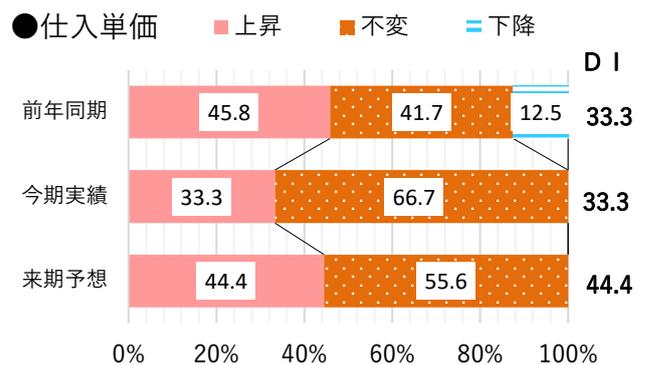
今期の売上単価DIは5.5で、前年同期と比べ7.0ポイント低下しました。

来期は、売上単価が下降すると予想しています。



今期の仕入単価DIは33.3で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

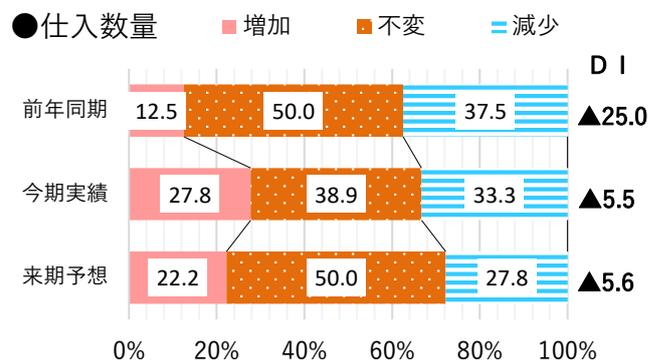
来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

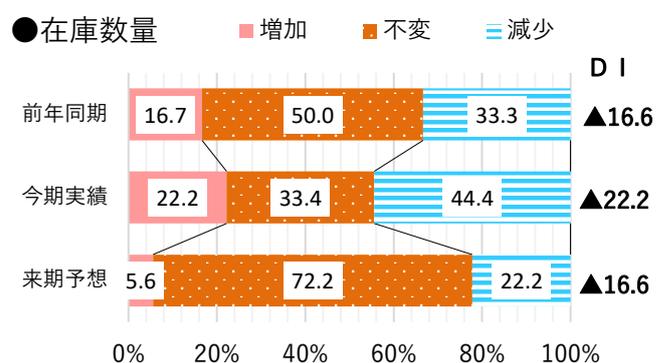
今期の仕入数量DIは▲5.5で、前年同期と比べ19.5ポイント上昇しました。

来期は、仕入数量に大きな変化はないと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲22.2で、前年同期と比べ5.6ポイント低下しました。

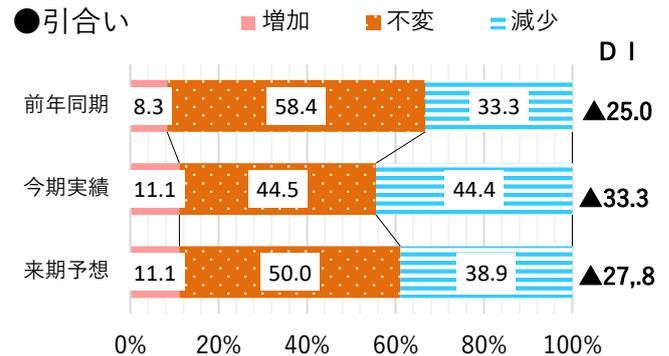
来期は、在庫数量の減少傾向が続くと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲33.3で、前年同期と比べ8.3ポイント低下しました。

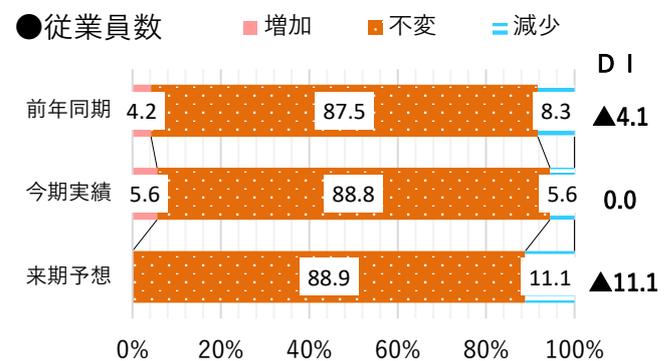
来期は、引合いの減少傾向が続くと予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ4.1ポイント上昇しました。

来期は、従業員数が減少に転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.6%、適正であると回答した企業の割合は88.8%、不足していると回答した企業の割合は5.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の83.3%を占めています。

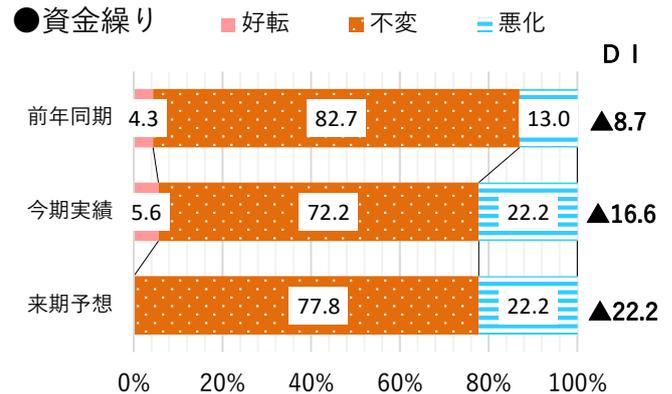
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」、「前年同期比で変わらず、過剰である」、「前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	15
	不足	0
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	1

資金繰り、設備投資

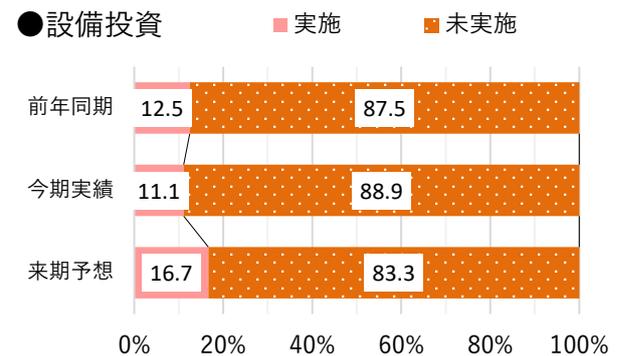
今期の資金繰りDIは▲16.6で、前年同期と比べ7.9ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



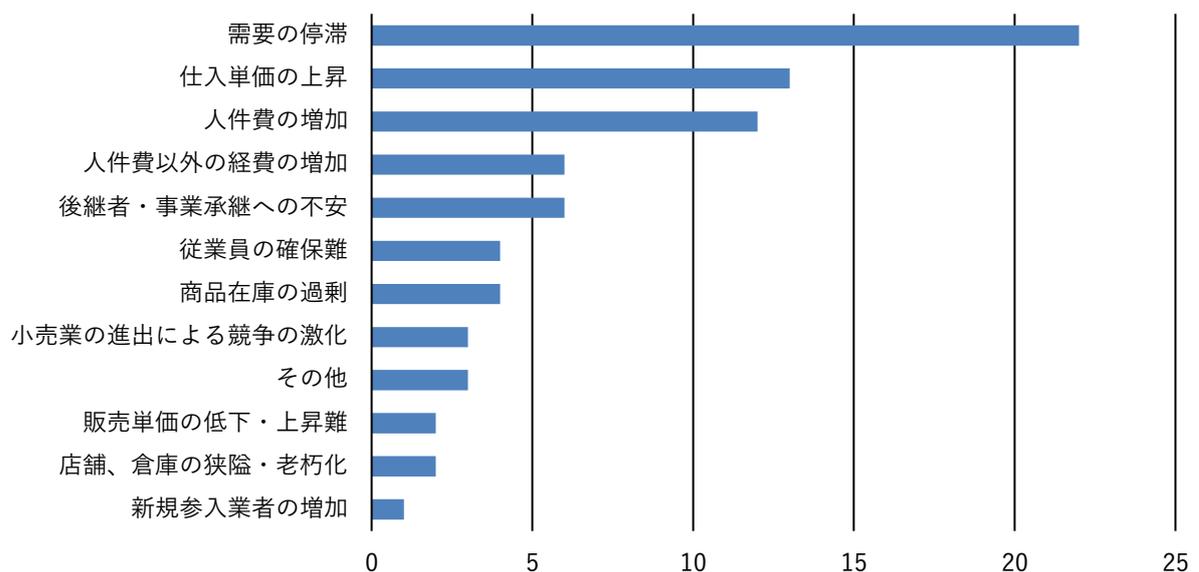
設備投資を実施した企業の割合は11.1%で、前年同期と比べ1.4%減少しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「土地」、「店舗」、「付帯施設」、「OA機器」(同位)でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は16.7%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「需要の停滞」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 新型コロナウイルスの影響下で、工事など大型の受注が好調であったが、卸の売上が低調だったため、健全とは言えない状況である。人材確保が順調だった。（電気機械器具卸売）
- 原油価格が上昇した。価格転嫁が難しかったが、厳しい寒さのため、販売数量は確保できた。（石油卸売）
- 北海道新幹線工事、国道5号道路建設工事関連の売上が好調だった。今後も同様の傾向が続くと思われる。（建築材料卸売）
- 新型コロナウイルスの影響で飲食店等の売上が低迷し、納品量が大幅に減少したため、業況は悪化した。商品仕入原価の高騰はこの状況でも続いているため、厳しい状況である。（食料・飲料卸売）
- コロナ禍のため、売上と経常利益が減少した。（食料・飲料卸売）
- 降雪量が昨年より多く、寒暖の差も大きかったため、バッテリー、スノーブレード、ボディパーツの売上が好調だった。（自動車部品卸売）
- 新型コロナウイルス関連の補助を受けており、現状は問題ないが、来年度は分からない。（事務用品卸売）
- 閑散期とはいえ、販売量が予想以上に落ち込んだ。明確な原因は分からない。（鉱物・金属材料卸売）

[来期の業況について]

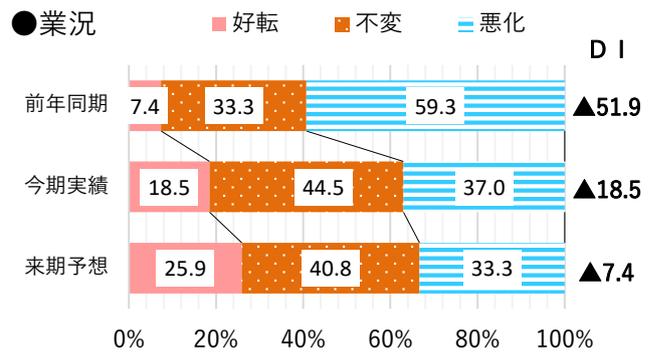
- 受注の確保に注力するが、業績は悪化を予想する。（電気機械器具卸売）
- ワクチンによって新型コロナウイルスの状況が改善されると、原油価格が上昇し、業況は悪化するだろう。（石油卸売）
- 車両の販売台数や稼働が増加する時期であり、夏に向けた部品の売上も見込める。（自動車部品卸売）
- 業況は不透明である。（食料・飲料卸売）
- 大幅に上昇した仕入単価を、販売先に転嫁できるか分からない。仮に転嫁できても、工事の予定等が見直しになり、販売量が減少する可能性がある。（鉱物・金属材料卸売）

小 売 業

業況、売上、採算

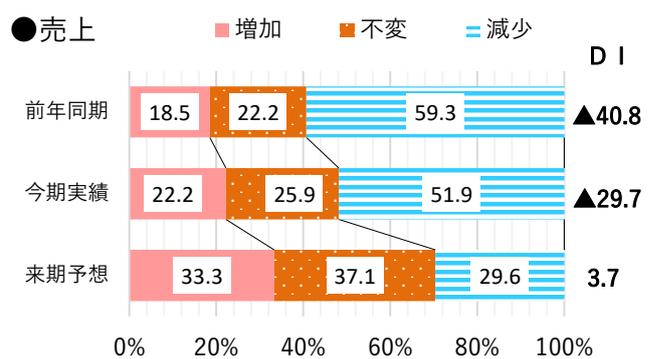
今期(2021.1~3)の業況判断DIは▲18.5で、前年同期(2020.1~3)と比べ33.4ポイント上昇し、大幅に好転しました。

来期(2021.4~6)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



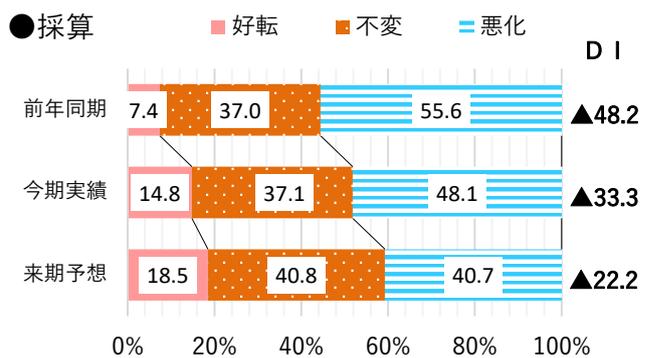
今期の売上高DIは▲29.7で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

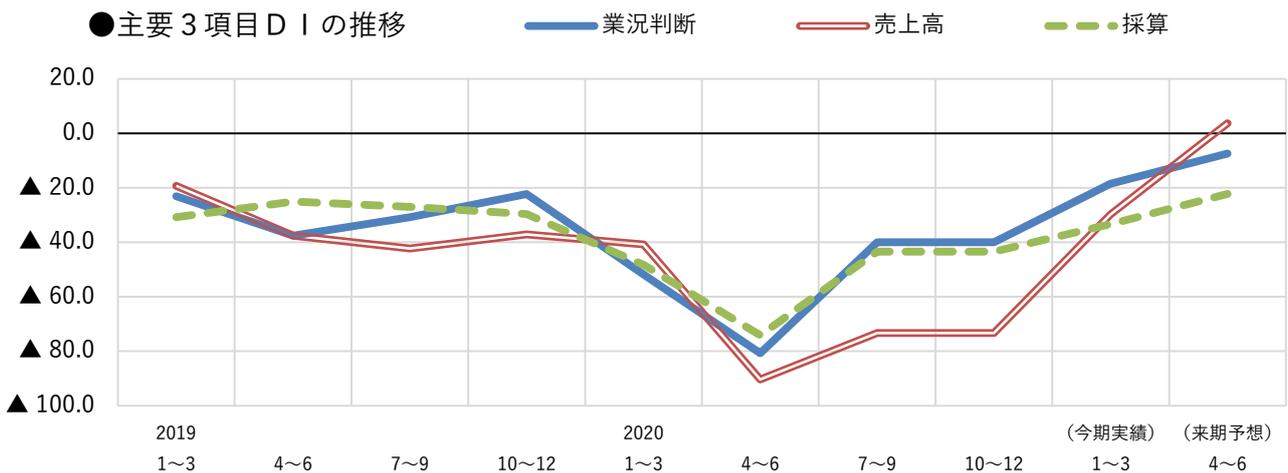


今期の採算DIは▲33.3で、前年同期と比べ14.9ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



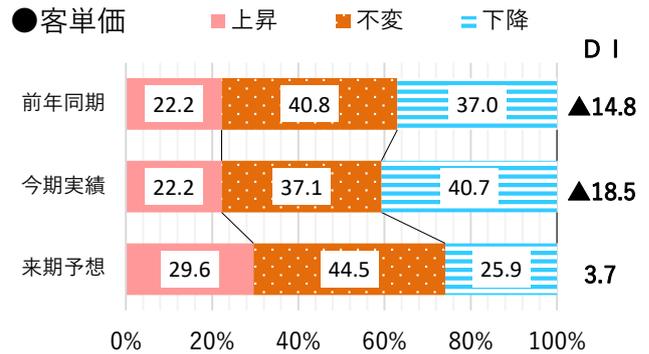
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

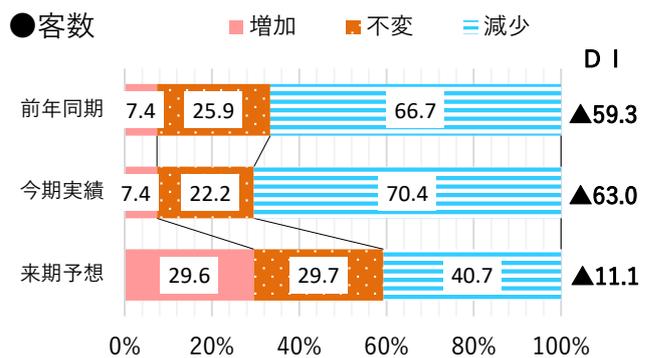
今期の客単価DIは▲18.5で、前年同期と比べ3.7ポイント低下しました。

来期は、客単価が上昇に転じると予想しています。



今期の客数DIは▲63.0で、前年同期と比べ3.7ポイント低下しました。

来期は、客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

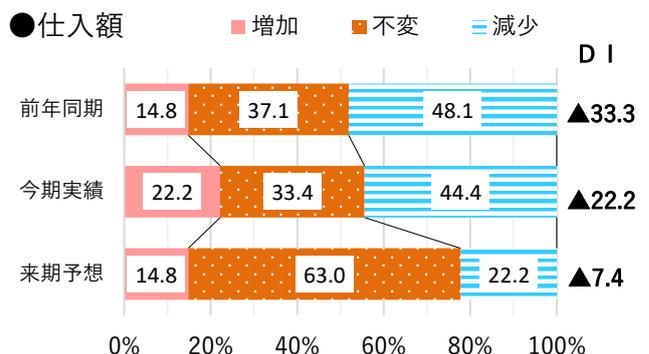
今期の仕入単価DIは14.8で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



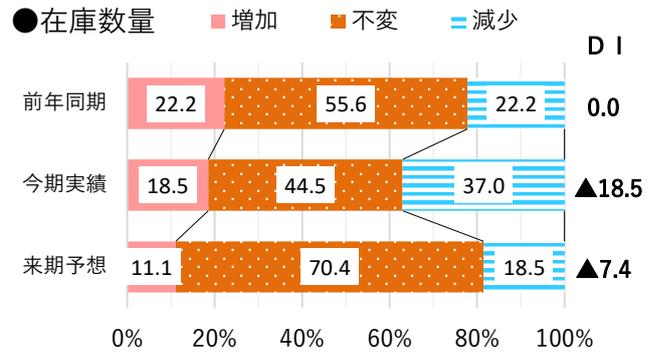
今期の仕入額DIは▲22.2で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、仕入額の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲18.5で、前年同期と比べ18.5ポイント低下し、マイナスに転じました。

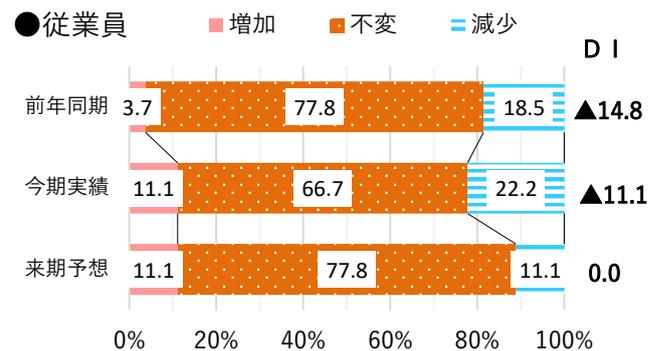
来期は、在庫数量の減少傾向が弱まると予想しています。



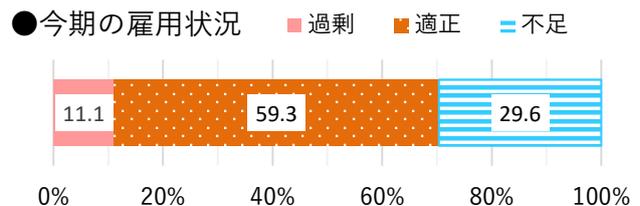
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲11.1で、前年同期と比べ3.7ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まり、横ばいになると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は11.1%、適正であると回答した企業の割合は59.3%、不足していると回答した企業の割合は29.6%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の44.4%を占めています。

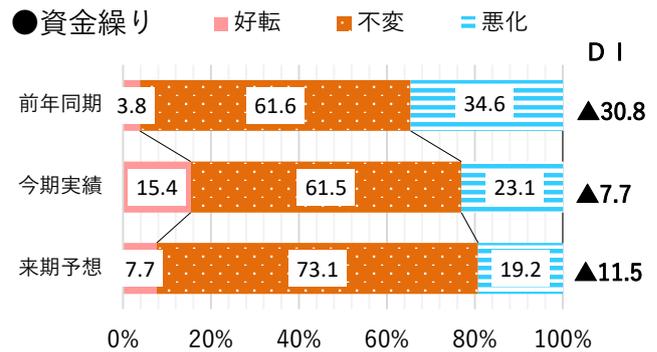
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	2
不変だった	過剰	1
	適正	12
	不足	5
減少した	過剰	2
	適正	3
	不足	1

資金繰り、設備投資

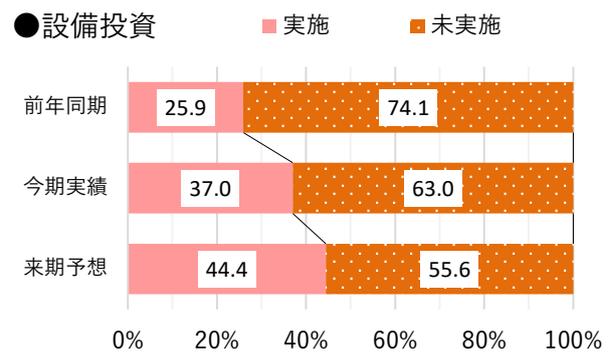
今期の資金繰りDIは▲7.7で、前年同期と比べ23.1ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



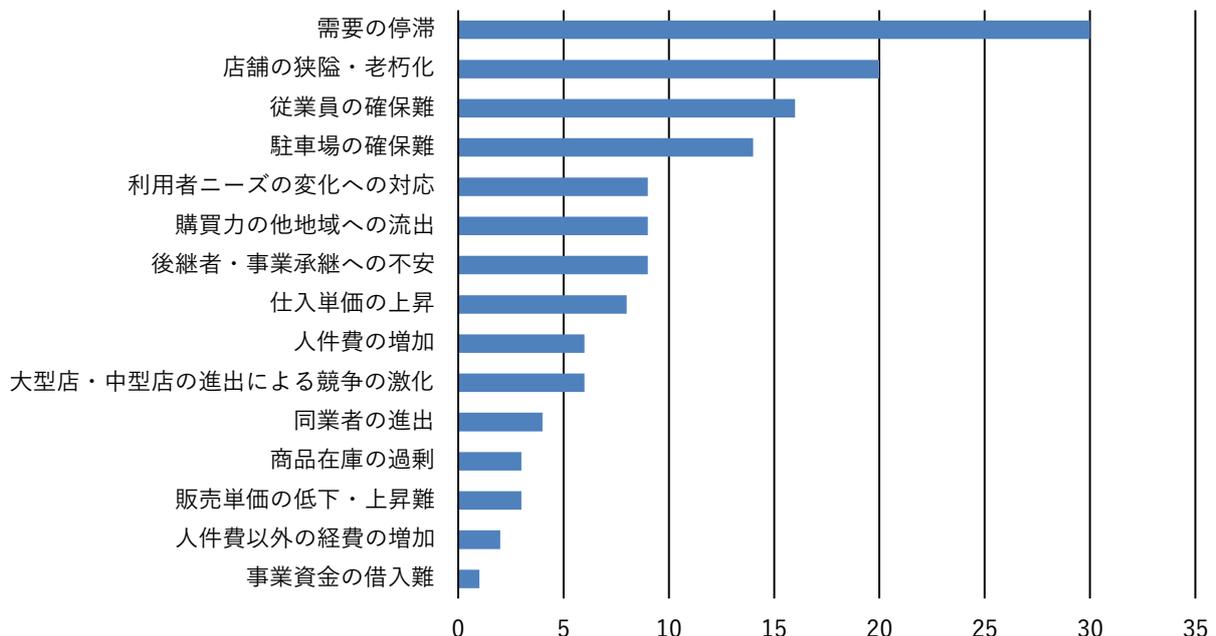
設備投資を実施した企業の割合は37.0%で、前年同期と比べ11.1%増加しました。投資内容は1位が「販売設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は44.4%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「店舗の狭隘・老朽化」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 飲食店の営業自粛や宿泊施設の利用者減少によって、売上が大きく減少した。一般家庭の需要も落ち着きつつある。ネット販売は、東京周辺からの購買が減少したため低調だったが、昨年秋から始めた新部門の売上が好調のため、今後注力したい。(食料品小売)
- 昨年末の新型コロナウイルス感染者数増加により、業況が悪化した。(食肉小売)
- 新型コロナウイルスの感染拡大によって、客数が減少した。(菓子製造小売)
- 政府のデジタルガバメント推進によって、かえって印章彫刻への注目が高まり、売上が増加した。(衣服・身の回り品小売)
- 安価で仕入れた商品の売上が好調で、採算が好転した。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルス終息の見通しが立たない。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスによって車の利用頻度が低下し、故障車や事故車の修理に係る収益が減少した。販売台数も減少した。人材確保が課題である。最低賃金は変わらなかった。(自動車小売)
- 売上は減少したが、客単価は上昇した。採算は不変だった。高齢化や人口減少により整備技術者の採用が進まず、人材が不足している。(自動車小売)
- 前年より雪が多かったため、仕事が増えた。(自動車小売)
- 物流コストの上昇と人材確保に悩まされた。(自動車小売)
- 原油価格の上昇のため、商品仕入額と売上が増加した。(燃料小売)
- 新型コロナウイルスの流行後初の年末年始で、多少の盛り上がりを期待したが、大きな変化は無かった。福袋販売や年始のイベントの際に、密にならない工夫や分散型の販売方法を採用したことも苦戦の一因と考える。不要不急の外出を避ける生活様式が、国民の日常に根付いたように感じる。(大型店)
- 前年同期比で売上が10%減少、客数が15%減少、客単価が5%増加した。昨年度は従業員の減少に対し補充を行わなかったが、本年1月から5名程度の採用活動を開始した。(大型店)
- 年度末に備品を修繕したので、経常利益が悪化したが、粗利は増加した。(大型店)
- 新型コロナウイルスの影響は続いている。客数の減少が業況の主な悪化要因である。(ドラッグストア)
- コロナ禍によって売れ筋商品の移り変わりがあったが、全体的に好調だった。(家電量販店)
- 今のところ資金は足りているが、先が見通せない状況下では予断を許さない状況である。(花・植木小売)
- 需要が下火になり、客数が減少した。(ホームセンター)
- 客数が減少し、最悪の状況だった。(コンビニ)

[来期の業況について]

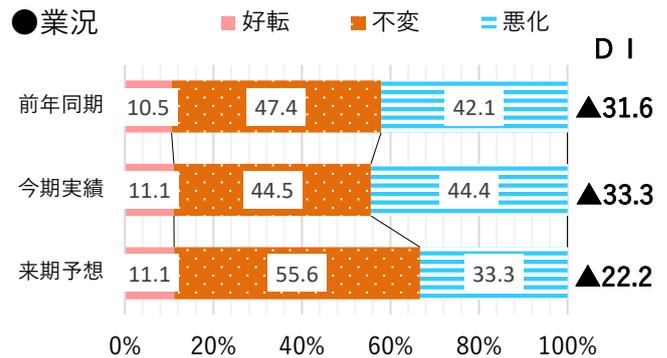
- 新型コロナウイルスの動向によっては好転が期待できるが、大きな回復は見込めない。コロナ禍が終息に向かっても、社会は従来と異なる生活様式を模索するため、当面は注意が必要になる。(食料品小売)
- 新型コロナウイルスと大型店の開店に伴い、業況の悪化を予想する。(食肉小売)
- 新型コロナウイルスの動向が懸念されるが、昨年同期よりは人出が多いと思われる。(菓子製造小売)
- 印章彫刻の需要は、今期同様高水準で推移すると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスの終息と、消費マインドの向上を期待する。(自動車小売)
- 新型車の投入を予定するが、業況は変わらないと思われる。(自動車小売)
- 景気が悪いため、業況は変わらない。(自動車小売)
- 売上、客数ともに多少の回復を見込むが、コロナ禍以前の水準までの回復は期待できない。(大型店)
- 人の流れが戻らなければ、回復は期待できない。あと少しの辛抱と思い努力したい。(大型店)
- 売上の増加を見込むが、経費も増加すると思われる。(大型店)
- 新型コロナウイルスの影響がいつまで続くのかという点に左右される。(ドラッグストア)
- オリンピックの開催が予定されているため、テレビ等の販売増加が期待できる。(家電量販店)
- 仕事量の回復には、時間がかかるとと思われる。(花・植木小売)
- 客数の減少傾向が続くと思われる。(ホームセンター)
- 新型コロナウイルスが終息しない限り、状況は変わらない。(コンビニ)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

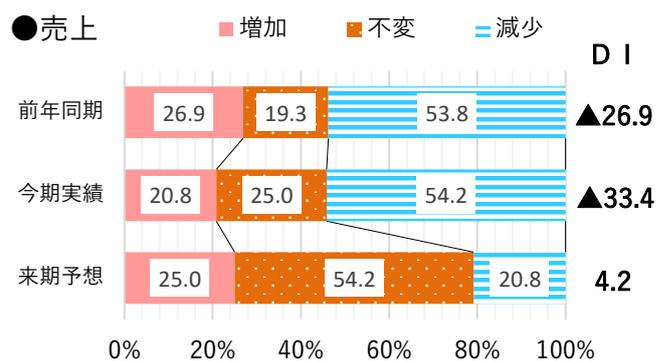
今期（2021.1～3）の業況判断DIは▲33.3で、前年同期（2020.1～3）と比べ1.7ポイント低下しました。

来期（2021.4～6）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



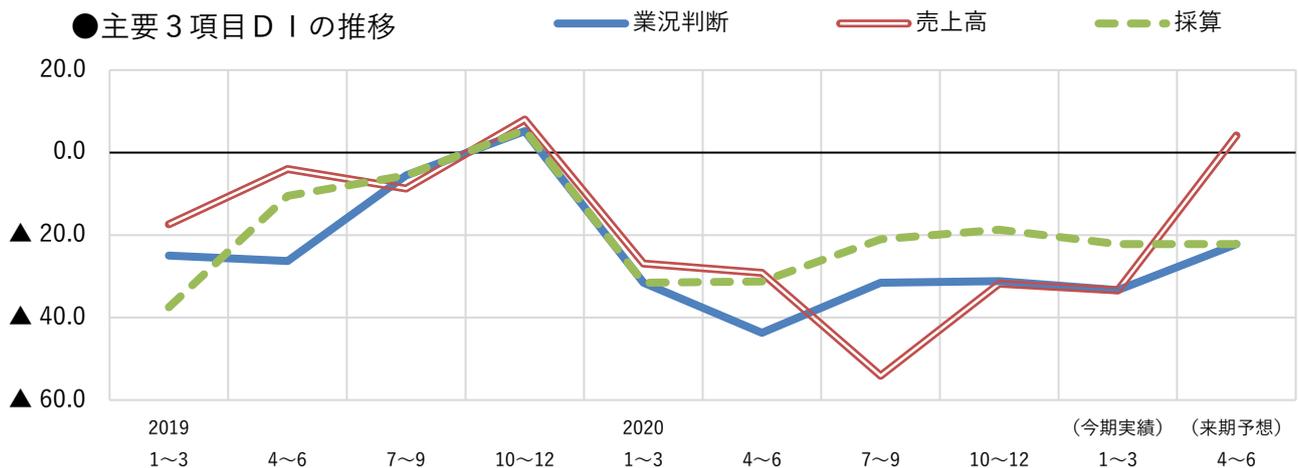
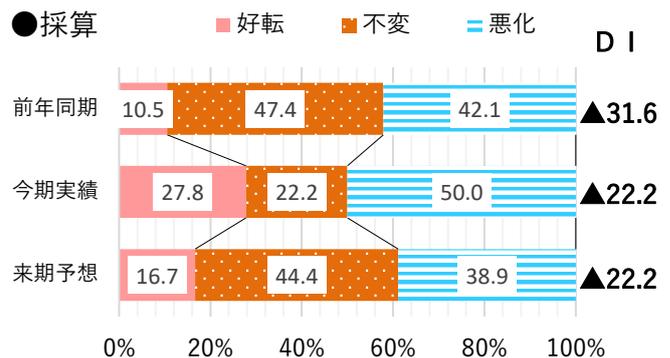
今期の売上高DIは▲33.4で、前年同期と比べ6.5ポイント低下しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。



今期の採算DIは▲22.2で、前年同期と比べ9.4ポイント上昇しました。

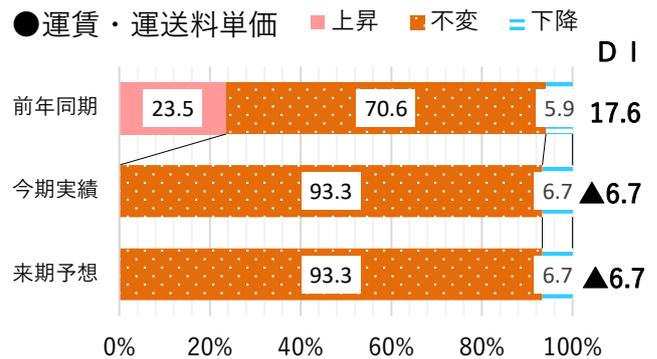
来期は、採算の横ばいを予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

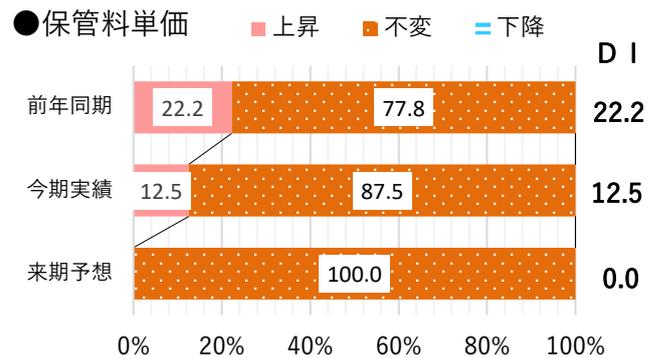
今期の運賃・運送料単価DIは▲6.7で、前年同期と比べ24.3ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価に変化はないと予想しています。



今期の保管料単価DIは12.5で、前年同期と比べ9.7ポイント低下しました。

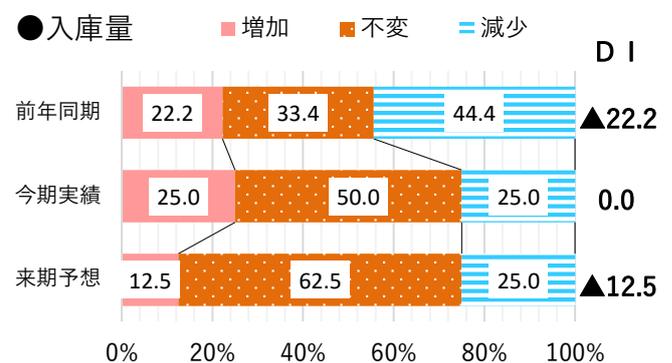
来期は、保管料単価に変化はないと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

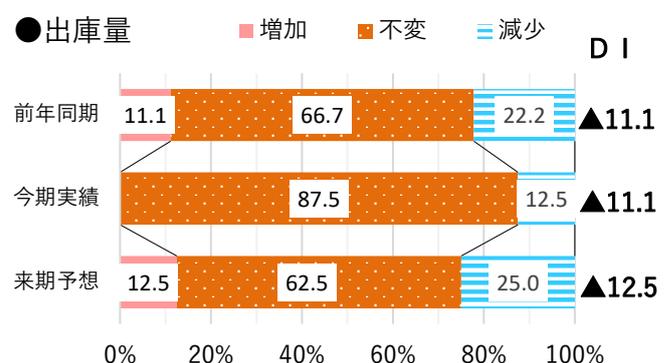
今期の入庫量DIは0.0で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

来期は、入庫量が減少に転じると予想しています。



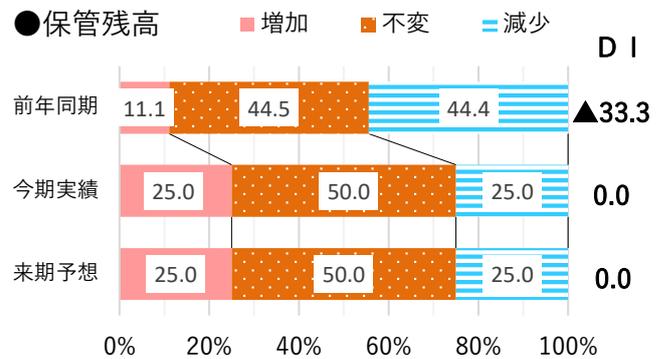
今期の出庫量DIは▲12.5で、前年同期と比べ1.4ポイント低下しました。

来期は、出庫量に変化はないと予想しています。



今期の保管残高DIは0.0で、前年同期と比べ33.3ポイント低下し、大幅に減少しました。

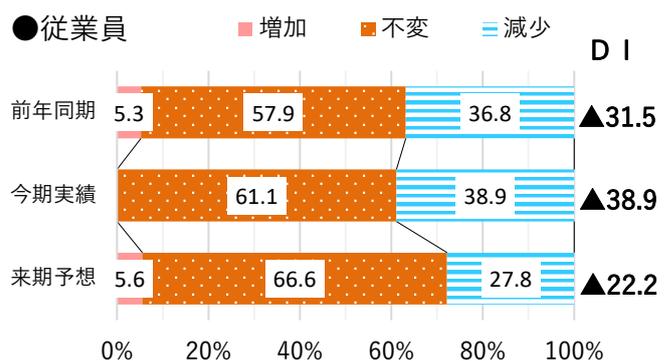
来期は、保管残高に変化はないと予想しています。



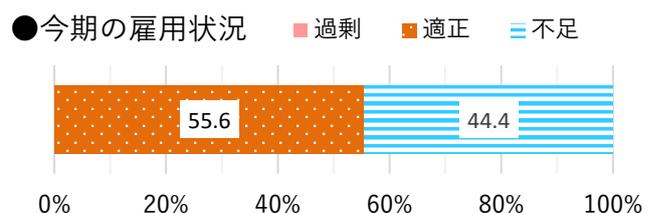
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲38.9で、前年同期と比べ7.4ポイント低下しました。

来期は、従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は55.6%、不足していると回答した企業の割合は44.4%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の38.9%を占めています。

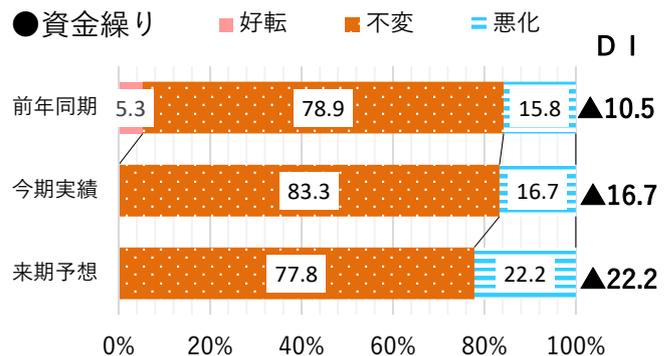
次いで多かったのは「従業員数は前年同期で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	4

資金繰り、設備投資

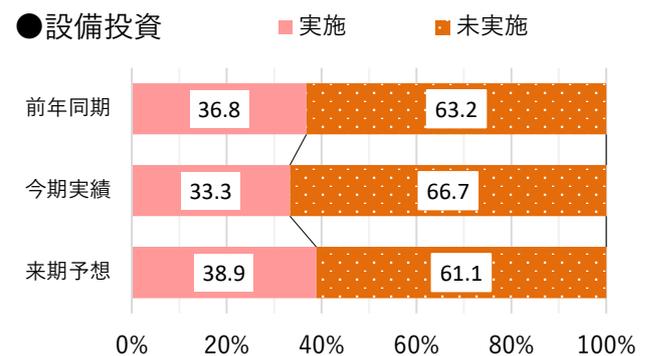
今期の資金繰りDIは▲16.7で、前年同期と比べ6.2ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



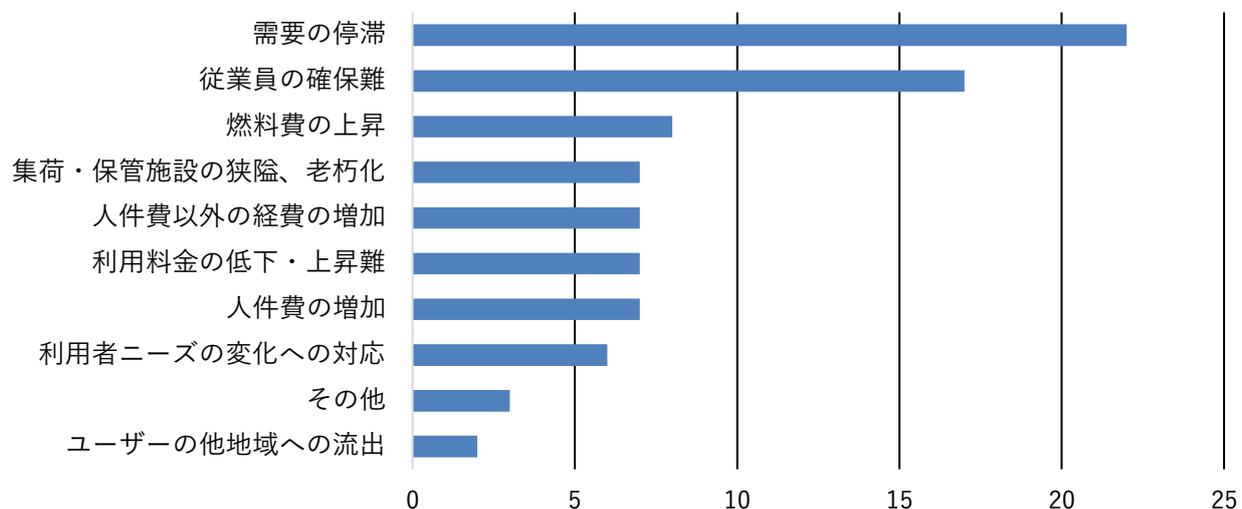
設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べ3.5ポイント低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「建物」、「付帯施設」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は38.9%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「従業員の確保難」、3位が「燃料費の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上は前年同期と変わらなかった。1月は人材不足だったが、2月に確保できた。(道路貨物運送)
- ホテルやマンションの建設関連需要が停滞したため、運輸量と売上が減少した。(道路貨物運送)
- 燃料費が上昇傾向にある。緊急事態宣言以降、荷物の量が減少した。(道路貨物運送)
- 例年、冬期は閑散期だが、今期は業務量が変わらなかった。(道路貨物運送)
- 売上が増加した。(道路貨物運送)
- 売上の低迷、人員不足、燃料費の高騰が課題である。(道路旅客運送)
- 非常に厳しかった。(道路旅客運送)
- 新型コロナウイルスの影響で、旅客と貨物の減少が続いている。(水運)
- 冷凍水産物の入庫量が減少し、売上が減少した。(倉庫)
- 入出庫量が減少し、売上が減少した。(倉庫)
- 入庫量が減少した。(倉庫)

[来期の業況について]

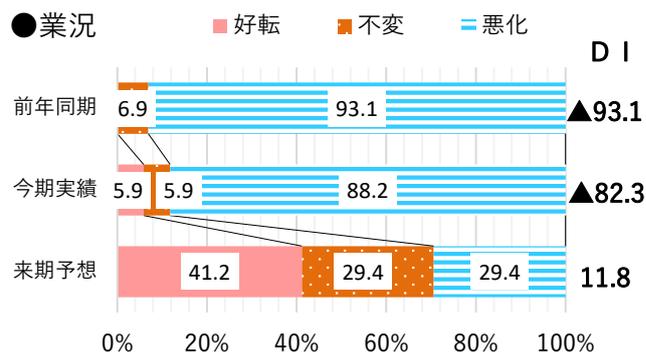
- 北海道新幹線関連は引き続き需要が見込まれるが、その他は不透明である。(道路貨物運送)
- 受注はあるので、例年並みの業況を見込む。(道路貨物運送)
- 燃料費の上昇が見込まれる。(道路貨物運送)
- 燃料費の上昇が続く。(道路貨物運送)
- 売上の低迷、人員不足、燃料費の高騰が続くと思われる。(道路旅客運送)
- 景気の回復を願う。(道路旅客運送)
- 新型コロナウイルスの影響が続くと思われる。燃料価格の上昇が懸念される。(水運)
- 今期同様に、入出庫量の減少によって売上が減少すると思われる。(倉庫)
- 入庫量の減少と出庫量の増加を見込む。(倉庫)

観光業

業況、売上、採算

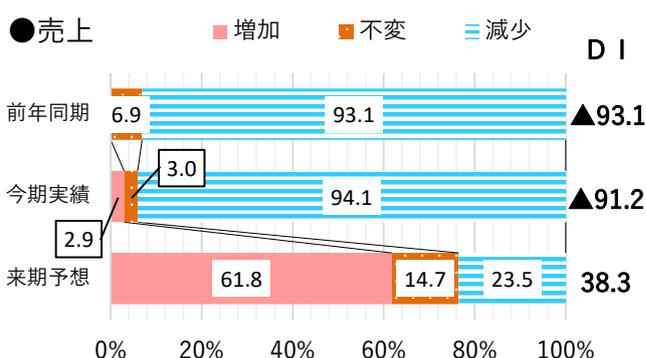
今期（2021.1～3）の業況判断DIは▲82.3で、前年同期(2020.1～3)と比べ10.8ポイント上昇しました。

来期（2021.4～6）は、業況が好転すると予想しています。



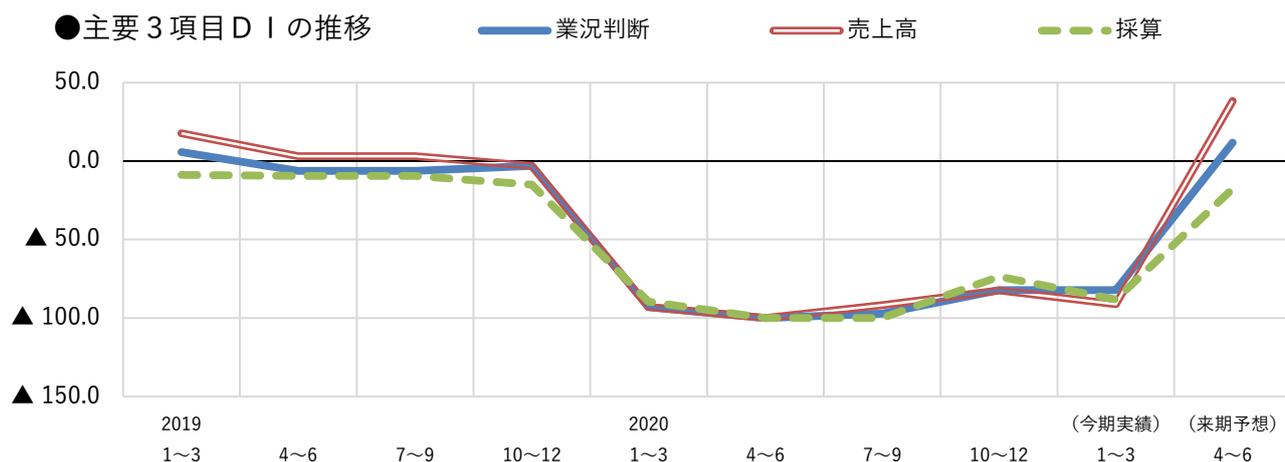
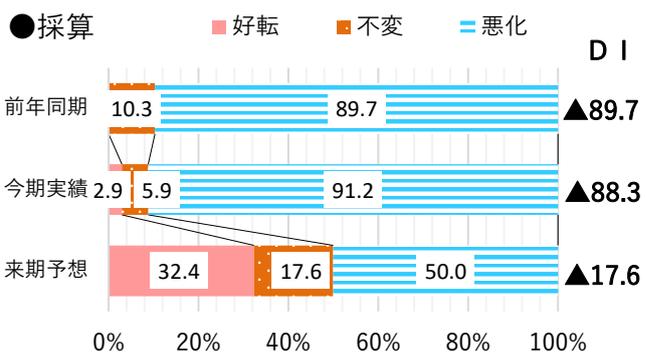
今期の売上DIは▲91.2で、前年同期と比べ1.9ポイント上昇しました。

来期は、売上が大幅な増加に転じると予想しています。



今期の採算DIは▲88.3で、前年同期と比べ1.4ポイント上昇しました。

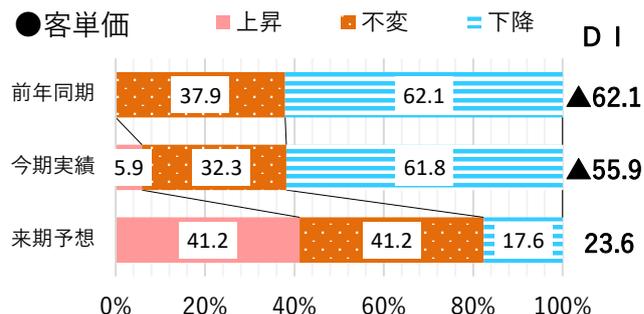
来期は、採算の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

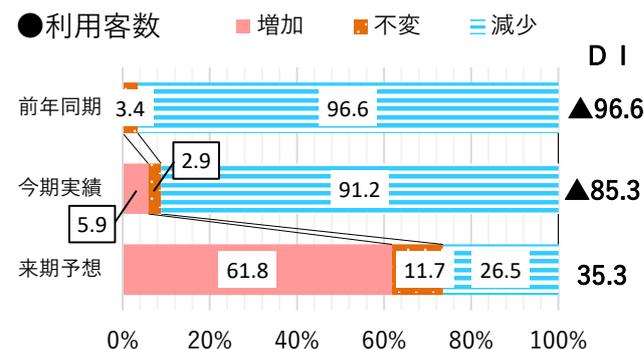
今期の客単価DIは▲55.9で、前年同期と比べ6.2ポイント上昇しました。

来期は、客単価が大幅な上昇に転じると予想しています。



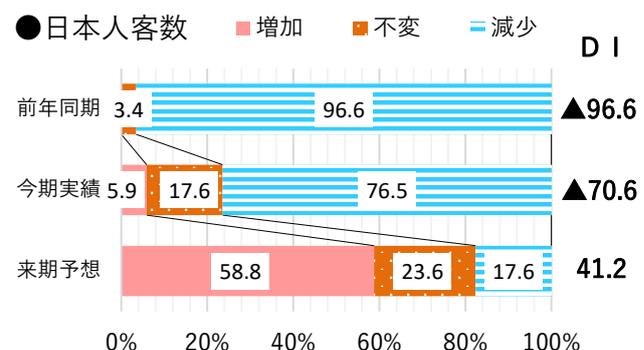
今期の利用客数DIは▲85.3で、前年同期と比べ11.3ポイント上昇しました。

来期は、利用客数が大幅な増加に転じると予想しています。



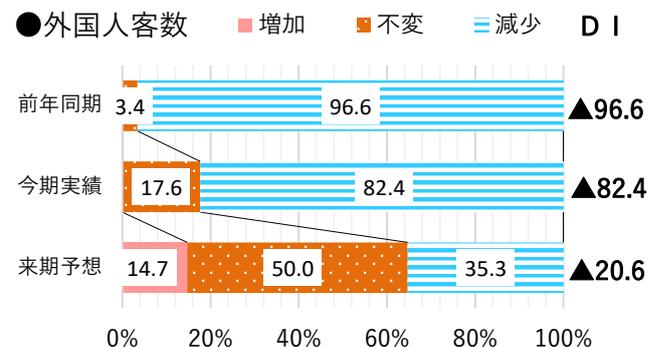
今期の日本人客数DIは▲70.6で、前年同期と比べ26.0ポイント上昇しました。

来期は、日本人客数が大幅な増加に転じると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲82.4で、前年同期と比べ14.2ポイント上昇しました。

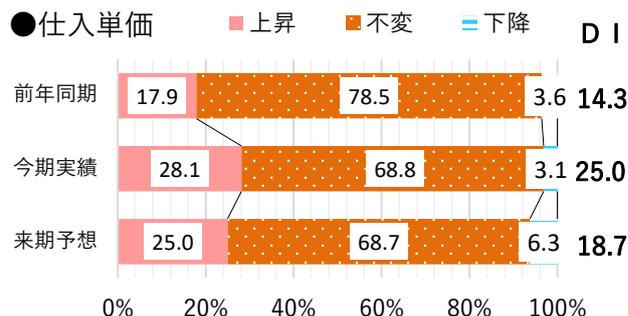
来期は、外国人客数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは25.0で、前年同期と比べ10.7ポイント上昇しました。

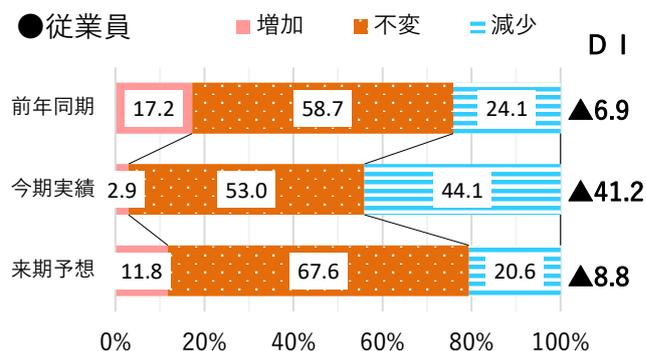
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



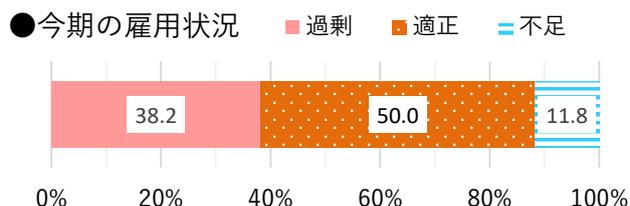
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲41.2で、前年同期と比べ34.3ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、従業員数の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は38.2%、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は11.8%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の29.4%を占めています。

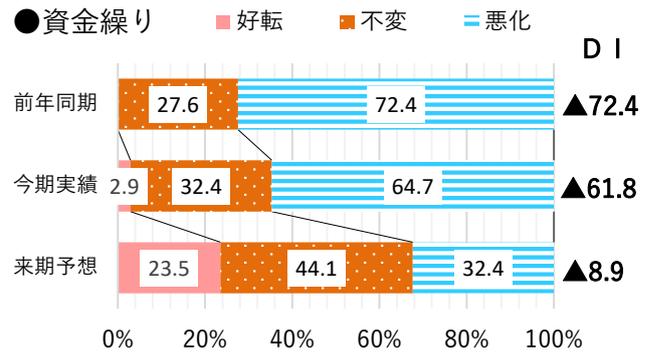
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、過剰である」、「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	6
	適正	10
	不足	2
減少した	過剰	7
	適正	7
	不足	1

資金繰り、設備投資

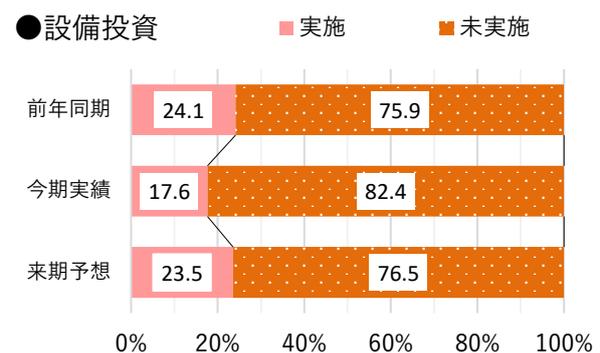
今期の資金繰りDIは▲61.8で、前年同期と比べ10.6ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は17.6%で、前年同期と比べて6.5%減少しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、「付帯施設」、「その他」（同位）、2位が「建物」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は23.5%で、増加を予想しています。

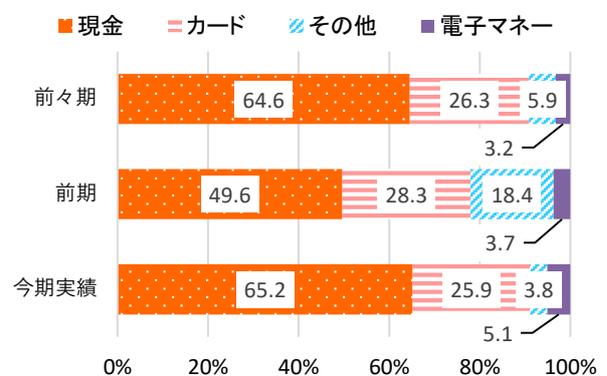


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で65.2%、2位がカードで25.9%、3位がその他で3.8%、4位が電子マネーで5.1%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、GoToイートの食事券、クーポン券、掛売り、銀行振込です。

●今期利用客の決済方法(%)

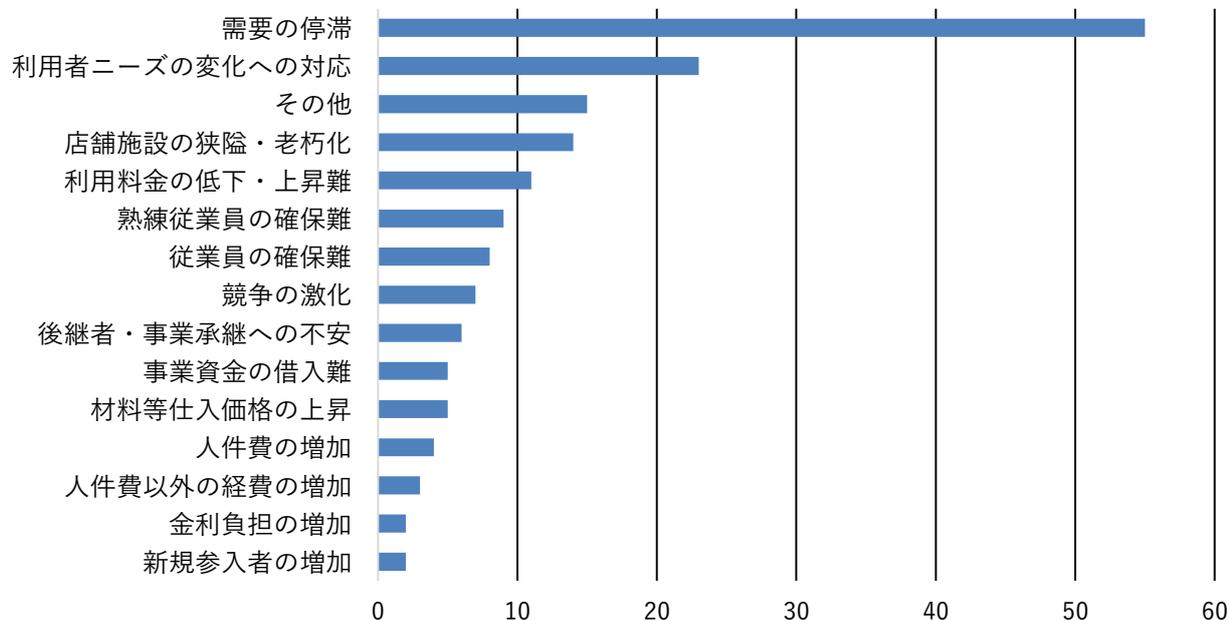


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は30.3%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「その他」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 新型コロナウイルスの影響で客数が減少し、業況が悪化した。(ホテル)
- コロナ禍のため業績が悪化した。(ホテル)
- 売上が大幅に減少した。(ホテル)
- 首都圏の緊急事態宣言や、札幌と小樽の外出自粛で、業況は大きく悪化した。(コテージ・ペンション)
- 昨年2月までコロナ禍の影響は無かったため、前年同期比の売上と利益は大幅に減少した。小樽市内と札幌圏に行動自粛が浸透しており、開店休業状態が続いた。ネット通販を強化したことで、売上が少しずつ伸長している。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響で、インバウンドはもとより国内観光客も減少している。(土産品)
- 観光客は少なく、インバウンドの来店は全くないため、とても厳しい。(土産品)
- 緊急事態宣言によって人出が減少し、業況が悪化した。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響で、札幌からの来客が減少した。(土産品)
- 観光客は回復せず、売上は低迷している。(土産品)
- インバウンドの来店は全くなかった。(土産品)
- 新型コロナウイルスによって観光客が減少し、業況が悪化した。(土産品)
- 卸売先からの受注量が減少した。(土産品)
- 昨年1～2月は新型コロナウイルスの影響が小さかったため、前年同期比の業況は大きく悪化した。インバウンドの来店が全くないため、とても厳しい状況にある。(飲食店)
- 観光地という場所柄、状況が緊急事態宣言によって大きく左右されるため、営業の判断、人材の投入、食材の仕入が安定せず苦労した。(飲食店)
- 2月の業況が特に悪かった。昨年借り入れた資金は使い切り、保険は解約した。(飲食店)
- 休業要請と札幌間の往来自粛により売上がなく、苦しい状況である。(飲食店)
- 市からの外出自粛要請等により、年末～1月上旬と1月下旬～2月中旬までの2回臨時休業しており、前年同期比の売上は約80%減少した。(水運業)

- 昨年2月はインバウンドの利用で100万円以上の利益があったが、今期は全く無かったため、対前年同期比の利益は100万円以上減少した。日本人の利用も減少しているが、地元客の利用傾向は大きく変わっていない。(レンタカー)
- 一般客の利用が増加傾向にある。(レンタカー)
- 冬期のため動きが少なかった。(娯楽業)
- 新型コロナウイルスの影響で、駐車場の利用が昨年同期比で30～60%減少した。(船舶貸渡業)

[来期の業況について]

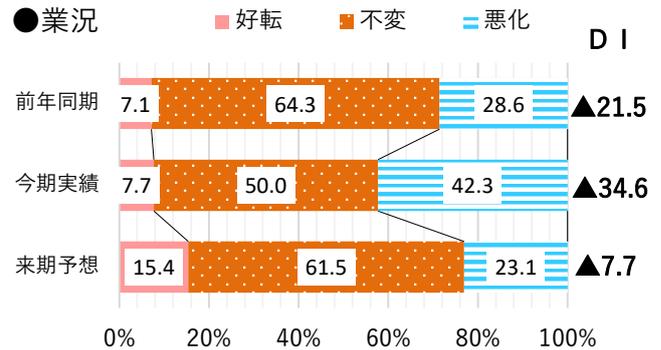
- ワクチンの供給が進み、国内客が増加すると思われる。(ホテル)
- 業況の改善は期待できない。(ホテル)
- 見通しが立たない。(ホテル)
- 新型コロナウイルスの状況に左右される。雇用調整助成金の助成率等が変わるため、不安を感じている。(コテージ・ペンション)
- 引き続き新型コロナウイルスによる不況下での事業を強いられる。節約を徹底して利益を確保したい。市内と札幌圏、道内からの来客増加に期待している。ワクチンの供給が進むまで不景気は続くだろう。(土産品)
- 新型コロナウイルスのワクチン供給と気温の上昇により、売上は回復するが、昨年同期の実績には届かないと思われる。(土産品)
- 新型コロナウイルスが終息しなければ、当分厳しい状況が続くと思われる。(土産品)
- 新型コロナウイルスの終息の見通しが見えないため、業況は厳しい。(土産品)
- ゴールデンウィークでの売上増加に期待する。(土産品)
- 現状の劇的な回復は見込めない。(土産品)
- 新型コロナウイルスのワクチンによって、多少人の流れが回復すると思われるが、再度感染者数が増加することがあれば、厳しい状況が続くと思われる。(飲食店)
- 改善を見込むが、借入金の返済が負担となるため、事業継続に不安を感じている。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの終息が見通せなければ、判断できない。(飲食店)
- 国内旅行者の増加に期待する。(飲食店)
- 3月中旬から客数が徐々に増えているため、売上の増加を期待する。(水運業)
- 昨年4月以降は対前年比70%程度の利用で推移しているので、同程度かさらに落ち込むと思われる。(レンタカー)
- 先行きは不透明である。(レンタカー)
- 春になると利用が増えると思うが、受注が低調のため、厳しい予測となる。(娯楽業)
- 新型コロナウイルスが終息すれば、例年通りの収益が見込めるが、今のところ難しい。(船舶貸渡業)

サービス業

業況、売上、採算

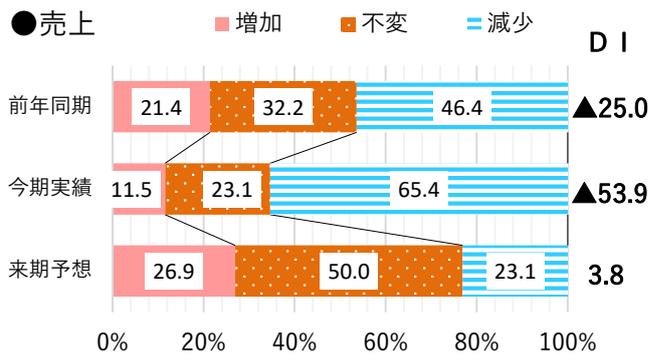
今期（2021.1～3）の業況判断DIは▲34.6で、前年同期(2020.1～3)と比べ13.1ポイント低下しました。

来期（2021.4～6）は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



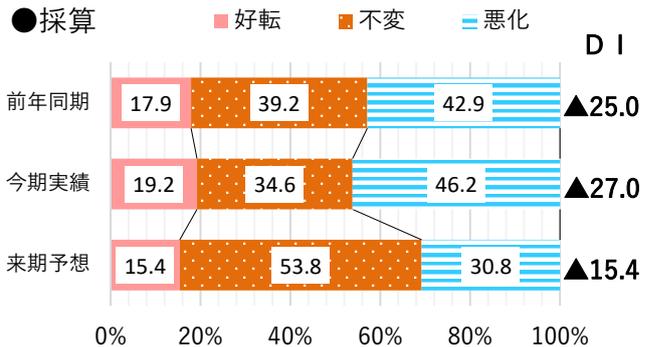
今期の売上高DIは▲53.9で、前年同期と比べ28.9ポイント低下しました。

来期は、売上が増加に転じると予想しています。

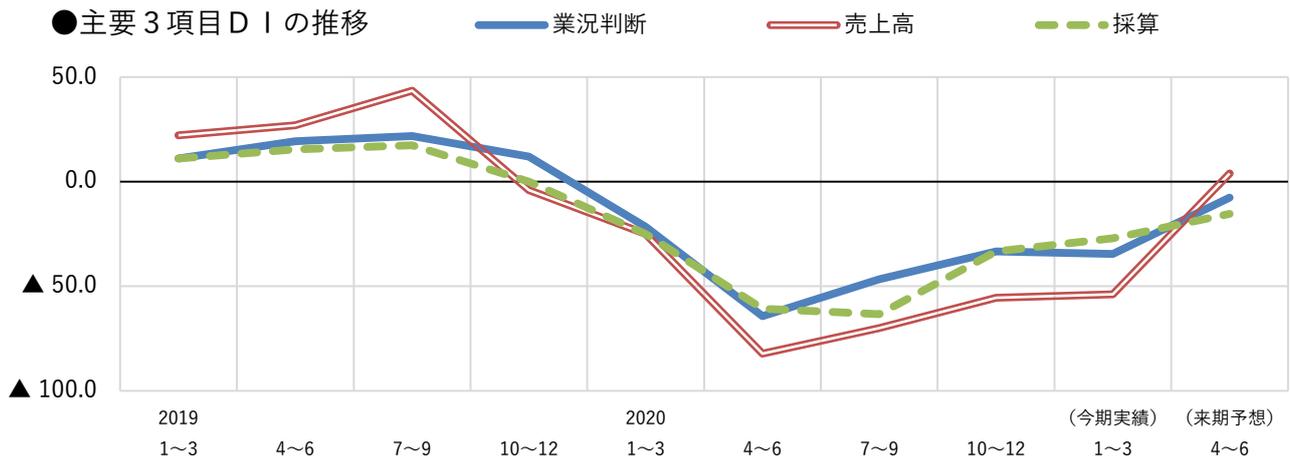


今期の採算DIは▲27.0で、前年同期と比べ2.0ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



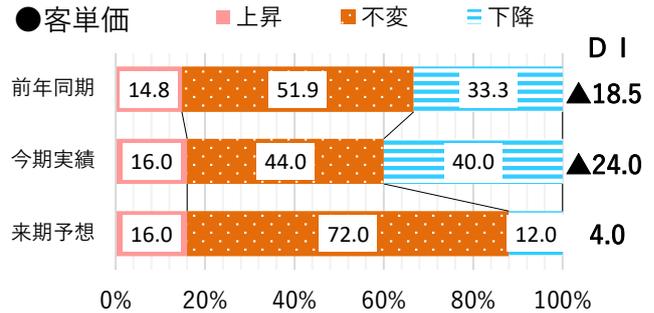
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

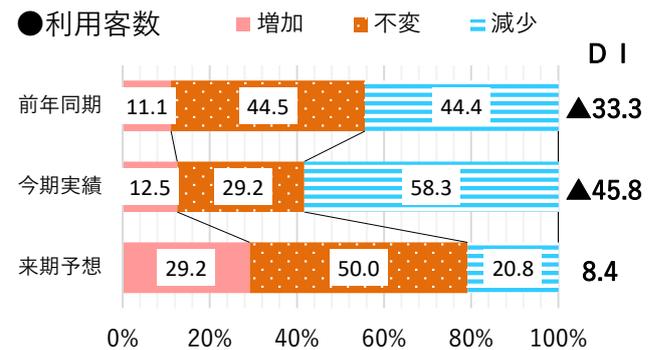
今期の客単価DIは▲24.0で、前年同期と比べ5.5ポイント低下しました。

来期は、客単価が上昇に転じると予想しています。



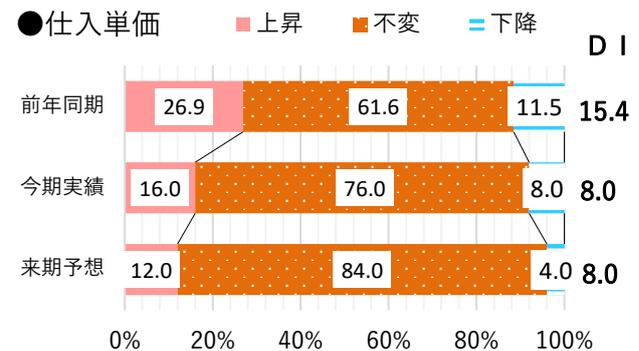
今期の利用客数DIは▲45.8で、前年同期と比べ12.5ポイント低下しました。

来期は、利用客数が増加に転じると予想しています。



今期の仕入単価DIは8.0で、前年同期と比べ7.4ポイント低下しました。

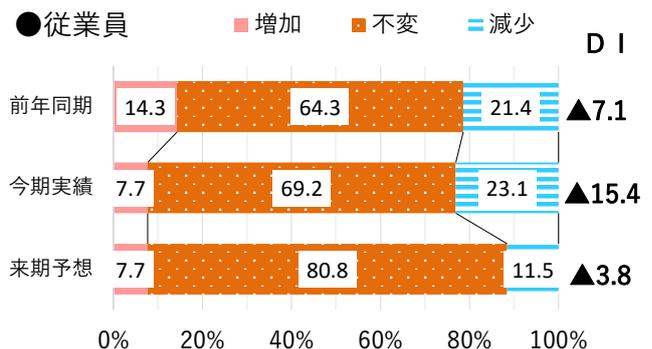
来期は、仕入単価の横ばいを予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲15.4で、前年同期と比べ8.3ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は11.5%、適正であると回答した企業の割合は73.1%、不足していると回答した企業の割合は15.4%でした。



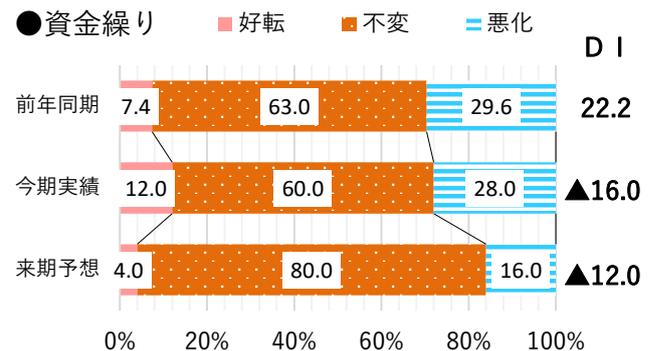
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の53.8%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	2
	適正	14
	不足	2
減少した	過剰	1
	適正	3
	不足	2

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」という回答でした。

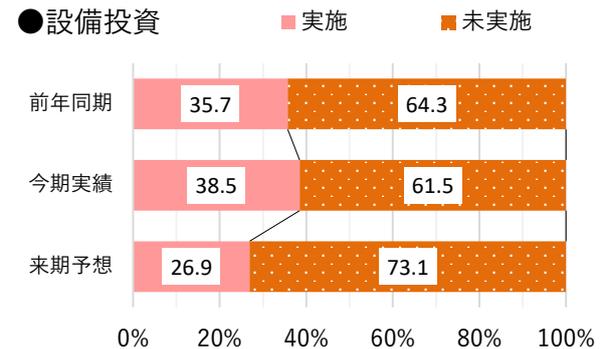
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲16.0で、前年同期と比べ6.2ポイント上昇しました。



来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。

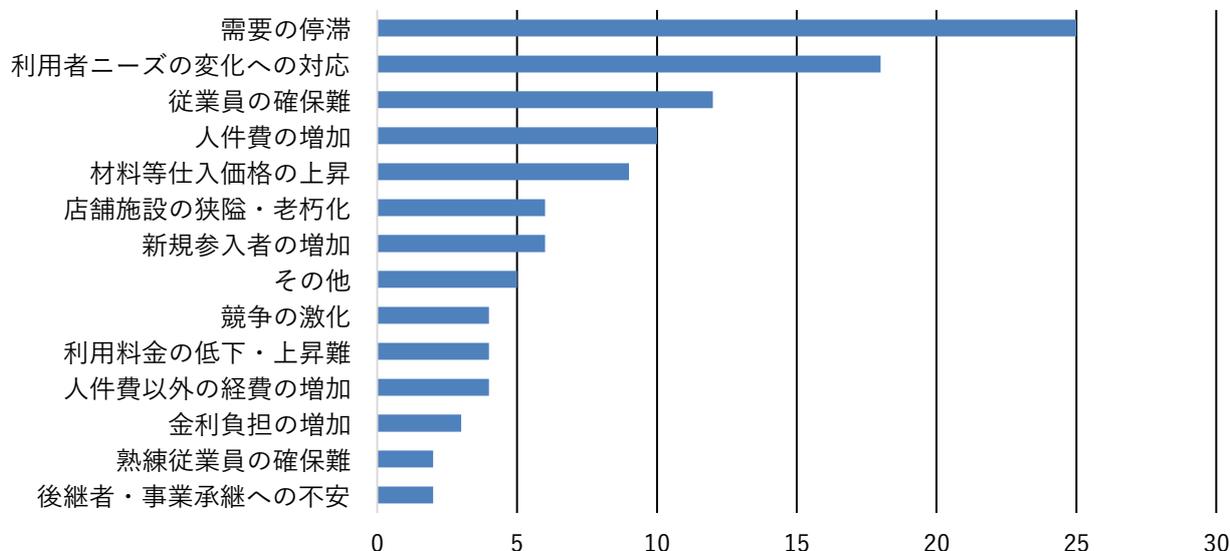
設備投資を実施した企業の割合は38.5%で、前年同期と比べ2.8%増加しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は26.9%で、減少を予想しています。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 仕入価格は安定していたが、客数の減少によって材料のロスが増加し、売上原価が上昇したため厳しい状況にある。（飲食店）
- 全国民への早急なワクチン供給が、経済回復のカギだと思う。今が景気の底ではないか。（飲食店）
- 好転の兆しは全く見えない。肉等の仕入価格が上昇した。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの影響で、3月以降に延期されていた修学旅行が中止となったため、状況は厳しい。（旅行代理店）
- 新型コロナウイルス関連の受注があったため、売上の落ち込みはさほど大きくなかった。粗利益の高い案件が多かったため、採算が好転した。（広告代理業）
- 外出自粛要請によって、客数が減少した。仕入価格は不変だったが、仕入れる必要が無かったため、支出額は減少した。従業員数と最低賃金は変わらなかった。（美容業）
- 人材確保が課題である。（ビルメンテナンス）
- 客数が減少した。（写真業）
- 昨年の緊急事態宣言下よりは業況は好転傾向にある。（保険業）
- 来店客数が2～3割減少した。（保険業）
- 繁忙期のため、短期のアルバイトを雇用した。3月の客数に変化は無かった。（不動産代理・仲介業）
- 新型コロナウイルスの影響で、ホテル部門の売上が大幅に減少した。病院部門は、患者数が減少している中で、売上が増加した品目がある。（各種物品賃貸業）
- 新規入会企業が増加したため、昨年並みの経常利益を維持できた。（スポーツ施設）

[来期の業況について]

- 少しずつ改善すると思うが、当分は現在の状況が続くと思うので、テイクアウト等に取り組みたい。（飲食店）
- 徐々に回復すると思われるが、感染力が強いと言われる変異型ウイルスの影響が懸念される。（飲食店）
- 新型コロナウイルスが終息しても、すぐに利用客が回復する状況ではないと思われるので、新たなビジネス展開も視野に入れる。（旅行代理店）

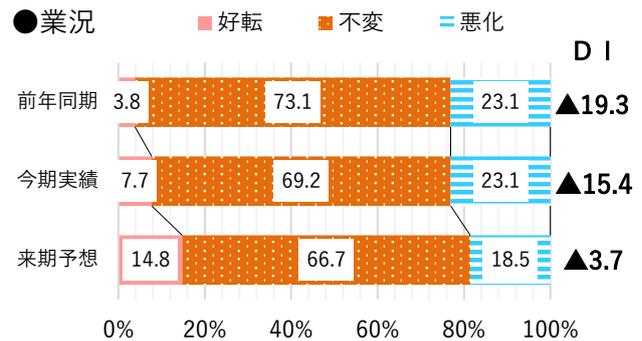
- 業況は不透明である。（広告代理業）
- 外出自粛要請が無ければ、好転が予想される。（美容業）
- 客数の減少が続くと思われる。（写真業）
- 昨年の緊急事態宣言直後に比べて、業況は若干改善すると思われる。（保険業）
- 来店客数に変化は無いと思われる。（保険業）
- 業況の変化は無いと思われる。新規採用の予定も無い。（不動産代理・仲介業）
- 新型コロナウイルスの影響は続くと思われる。病院部門での増収増益を見込む。（各種物品賃貸業）
- 年会費と利用料金を引き上げるため、増収を見込む。（スポーツ施設）

建設業

業況、売上、採算

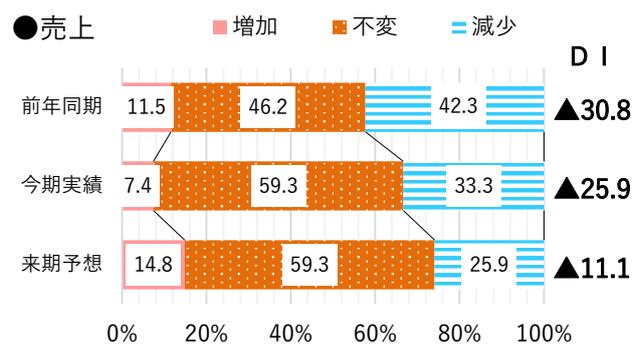
今期（2021.1～3）の業況判断DIは▲15.4で、前年同期(2020.1～3)と比べ3.9ポイント上昇しました。

来期（2021.4～6）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



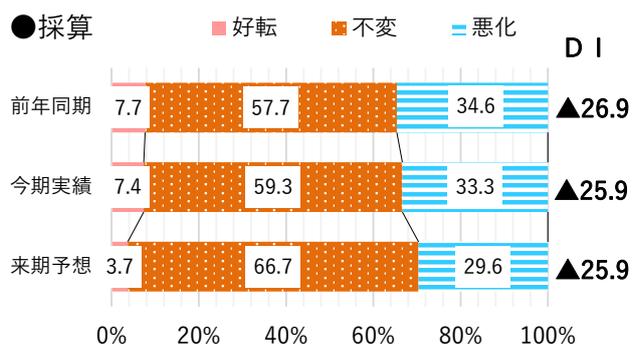
今期の売上高DIは▲25.9で、前年同期と比べ4.9ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が弱まると予想しています。

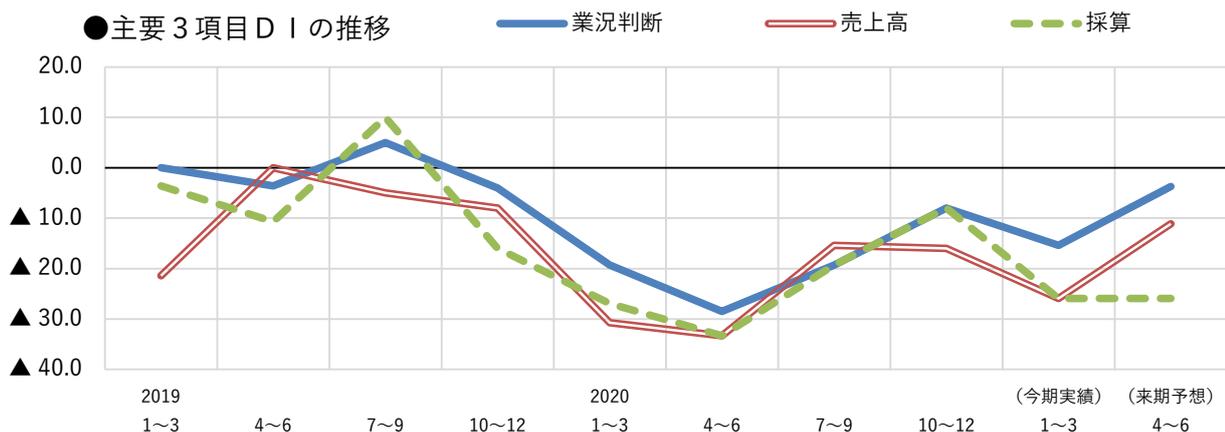


今期の採算DIは▲25.9で、前年同期と比べ1.0ポイント上昇しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



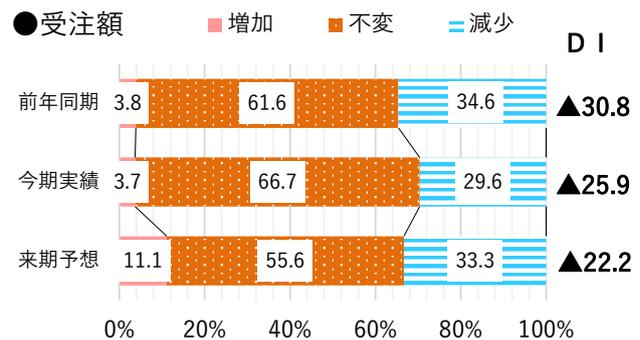
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

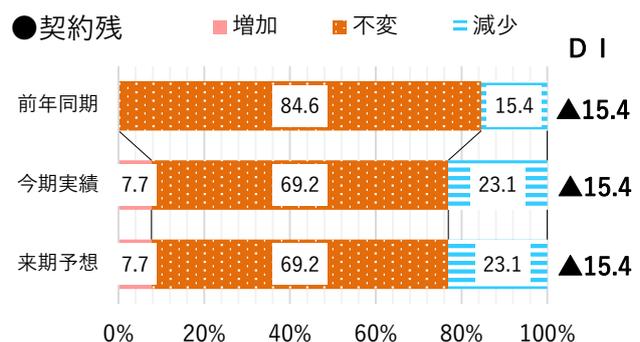
今期の受注額DIは▲25.9で、前年同期と比べ4.9ポイント上昇しました。

来期は、受注額の減少傾向が続くと予想しています。



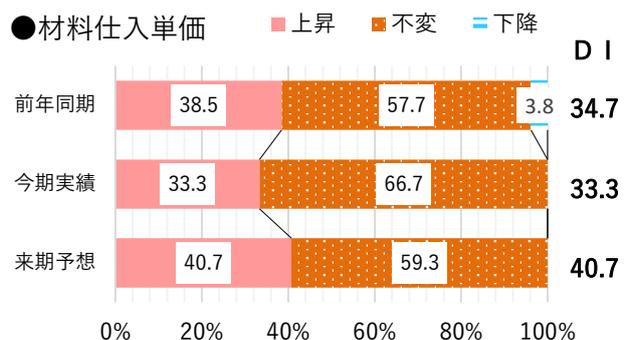
今期の契約残DIは▲15.4で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、契約残に変化はないと予想しています。



今期の材料仕入単価DIは33.3で、前年同期と比べ1.4ポイント低下しました。

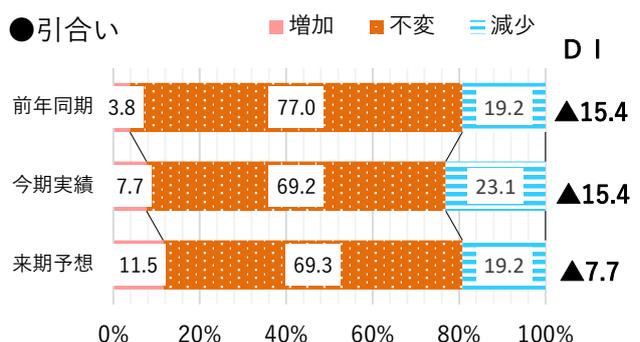
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲15.4で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

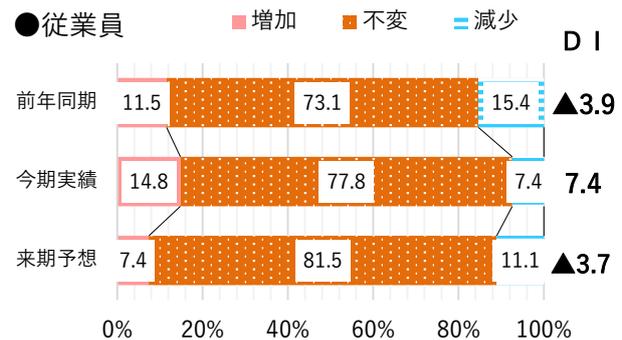
来期は、引合いの減少傾向が弱まると予想しています。



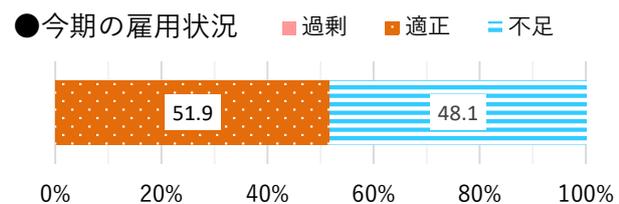
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは7.4で、前年同期と比べ11.3ポイント上昇し、増加に転じました。

来期は、従業員数が減少に転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は51.9%、不足していると回答した企業の割合は48.1%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、建設業全体の44.4%を占めています。

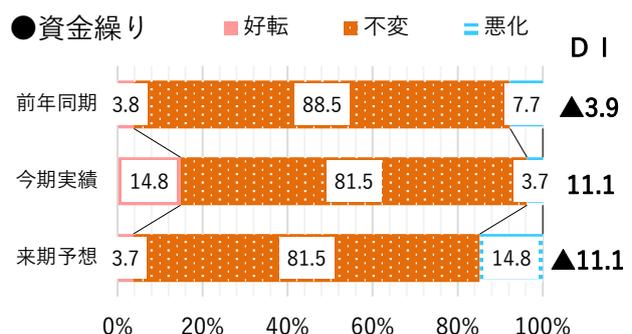
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	9
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	2

資金繰り、設備投資

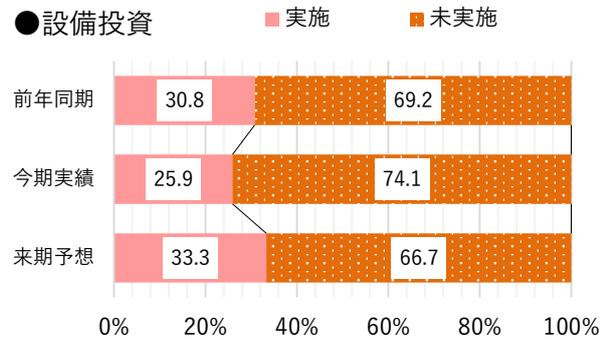
今期の資金繰りDIは11.1で、前年同期と比べ15.0ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りが悪化に転じると予想しています。



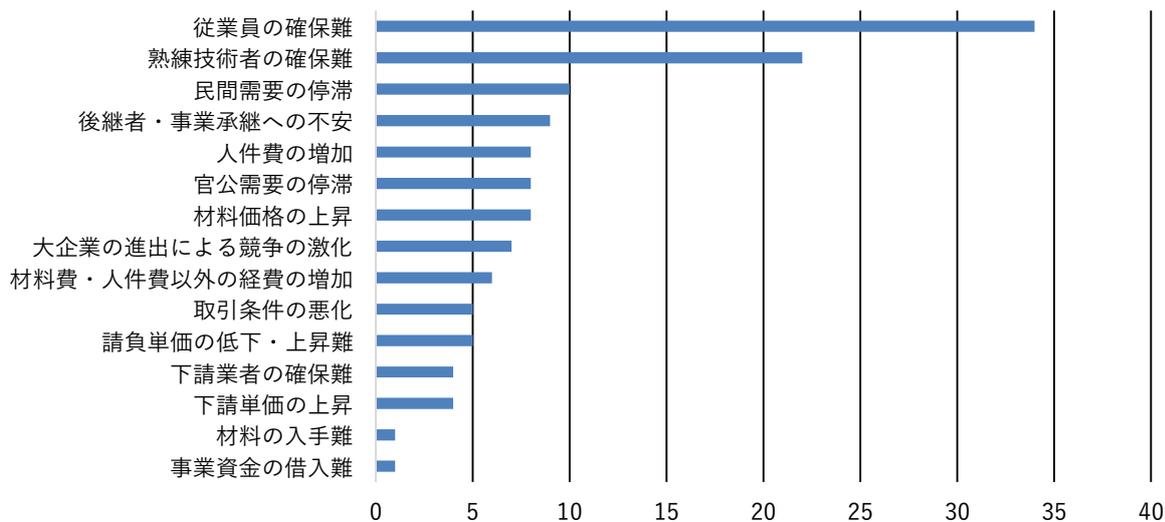
設備投資を実施した企業の割合は25.9%で、前年同期と比べ4.9%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は33.3%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「民間需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 昨年末で大型工事が完了し、除排雪関連の仕事も少なかったため、年明け以降は修繕工事のみだった。大型工事の収入と、新型コロナウイルス関連の貸付制度で経営している状況である。人材不足だが、今後の景気動向が見通せないで、様子を見ながら人材を雇用する。(一般土木工事業)
- 冬期の受注減と新型コロナウイルスの影響で、完成工事(売上)が減少している。(一般土木工事業)
- 人材不足が課題である。(一般土木工事業)
- 業界特有の受注の波によって売上が減少した。(一般管工事業)
- 売上が30%程度減少し、他の項目も全般的に悪化した。(一般管工事業)
- ガラス工事の閑散期に当たるため、受注が減少した。(職別工事業)
- 前年同期比では悪化となるが、今年度通しての業績は前年度と比較して好転した。(設備工事業)
- 官公庁からの入札件数が減少した。(造園業)
- 人材を確保できたことで売上が増加し、業況は好転した。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルスの動向に左右されるため、予測が難しいが、今期より悪化すると思われる。公共工事の減少や、民間企業が工事の発注を控える可能性もある。(一般土木工事業)

- 春期はやや業況が好転すると思われる。（一般土木工事業）
- 新型コロナウイルスの影響によるものか判断できないが、引合いの減少や業界全体の動きの鈍化を感じるので、業況の悪化を予想する。（一般官工事業）
- 受注が増加すると思われる。（職別工事業）
- 単発のメンテナンス業務の受注が増えると思われる。（造園業）
- 業況の持ち直しに期待する。（造園業）
- 今期の好況が続くことを望むが、コロナ禍において予想は難しい。（電気工事業）

市内企業倒産状況

2021年1月~3月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は2件、前年同期比減少
負債総額は3,200万円、前年同期比減少

	倒産件数	負債総額
	<u>2件</u>	<u>3,200万円</u>
前年同期比	件数 -1件 (前年同期 3件)	負債 -7億200万円 (前年同期 7億3,400万円)
■1月 なし		
■2月 居酒屋経営（負債1,300万円：販売不振による破産）の1件が発生した。		
■3月 冷凍機販売（負債1,900万円：販売不振による破産）の1件が発生した。		

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2021年1月~3月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は65件、前年同期比増加
新設着工住宅戸数は44棟61戸、前年同期比増加

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	<u>65件</u>	<u>44棟61戸</u>
前年同期比	件数 +6件 (前年同期 59件)	戸数 +11棟28戸 (前年同期 33棟33戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		